

館藏
172
565
一册號架

業社編纂

萬國小歷史

版權所有

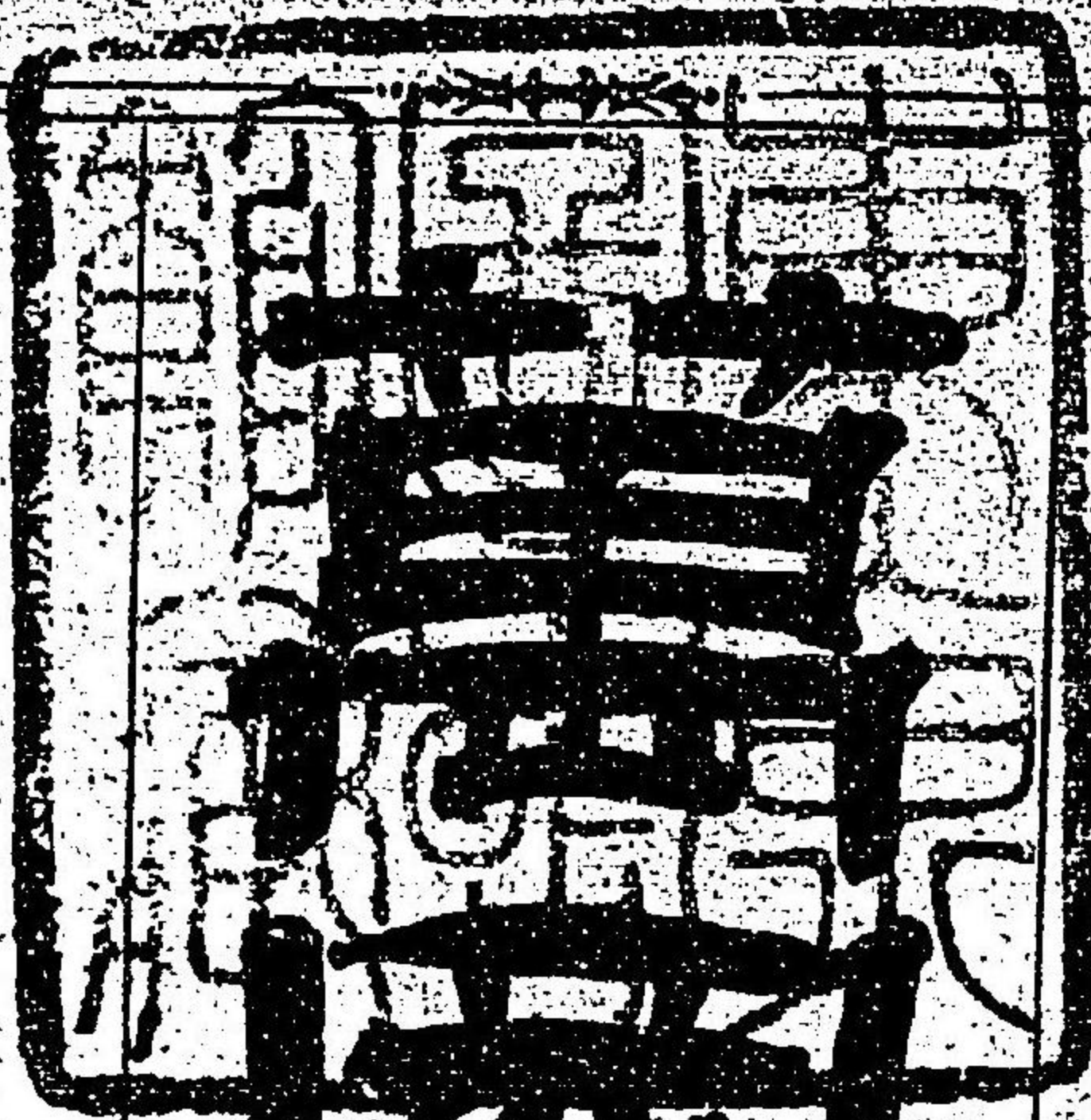
敬業社發兌

特20
83

№18152

版權所有

敬業社發兌



中國小歷史

敬業社編纂



例言

一 此書ハ主トシテ高等中學受験者尋常中學生等
ノ爲ニ作リタルモノニシテスウヰントンパー
シス氏等ノ萬國史ニ就キ煩ヲ省キ要ヲ摘ミ極
メテ購讀者ノ便ヲ圖レリ
一 地名人名等ニハ皆洋語ヲ插ミ且ツ地圖ヲモ加
ユル筈ナリシモ他ニ事情アリテ上梓ヲ急グ
トナリ遂ニ意ノ如クスルヲ得ズ他日若シ再版
ノ幸運ヲ得ハ必ズ此欠點ヲ補フベシ

編者識

目次

總論

第一篇 古代史

第一章 埃及史

第二章 巴比倫尼亞及西亞述史

第三章 希伯流史

第四章 腓尼西亞史

第五章 印度史

第六章 波斯史附屬本史

第七章 希臘史

第一節 總論

第二節 太古史

- 第三節 斯波多及ビ雅典ノ隆興
- 第四節 波斯戰爭
- 第五節 ペリクルスノ時代
- 第六節 ペロポネソサス戰爭及ビ齊武士戰爭
- 第七節 麻世敦王國及ビ希臘ノ末路
- 第八節 希臘ノ文明
- 第一節 政体及ビ宗教
- 第二節 哲學
- 第三節 文學及ビ美術
- 第八章 羅馬史
- 第一期 王政時代
- 第二期 共和時代

- 第一節 貴族ト平民トノ争
- 第二節 以太利統一及ビ海外征討
- 第三節 内亂ノ時代
- 第三期 帝政時代
- 第一節 オーガスタスノ治世
- 第二節 兵士ノ専横及ビ羅馬帝國ノ二分
- 第三節 西羅馬帝國
- 第四節 耶蘇教ノ弘布
- 第二編 中世史
- 第一章 總論
- 第二章 フランク王國

第三章 英吉利王國

第四章 西班牙王國

第五章 日耳曼帝國

第六章 東羅馬帝國

第七章 羅馬法王

第八章 十字軍

第九章 封建制度

第十章 義騎制度

第十一章 中世文明ノ有様

第三編 近世史

第一章 十六世紀

第一節 海上發見

第二節 中央集權

第三節 國力平均ノ争

第四節 宗教改革

第五節 ヘンリー八世及ピ女王 エリザベス

第六節 佛國宗教争亂

第七節 和蘭共和國ノ勃興

第八節 十六世紀文明ノ有様

第二章 十七世紀

第一節 ステュワート 王家

第二節 三十年戦争

第三節 ルイ十四世ノ治世

第四節 十七世紀文明ノ有様

第三章 十八世紀

第一節 ハンノーバー王家

第二節 普魯西ノ勃興

第三節 魯西亞ノ勃興 附 ナポールス十二世紀

第四節 佛蘭西大革命

第五節 十八世紀文明ノ有様

第四章 十九世紀

第一節 佛國ノ政變

第二節 英國ノ繁盛

第三節 以太利統一

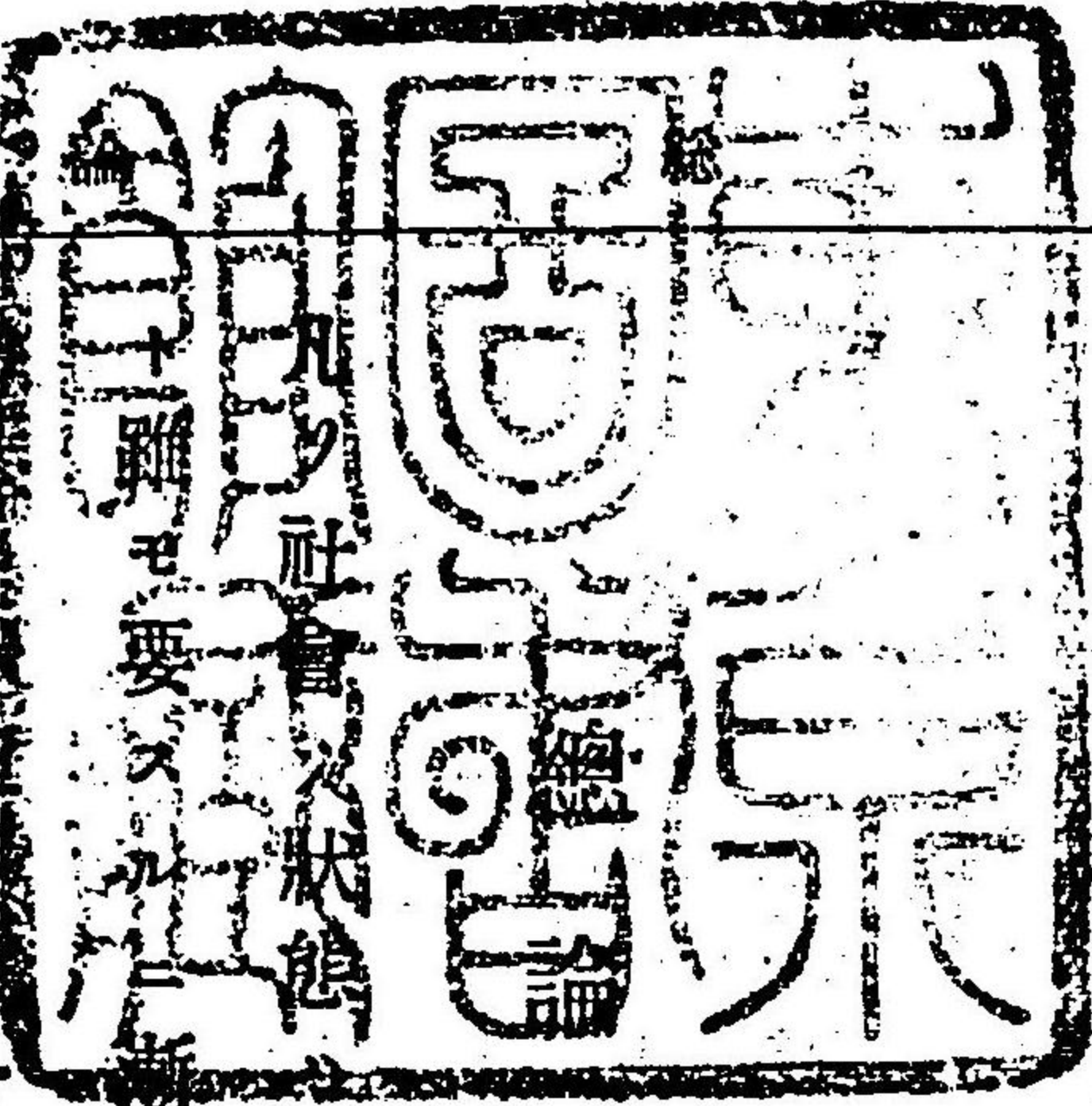
第四節 日耳曼帝國ノ再興

附録 米國史

萬國小歴史

貸教育會

敬業社編纂



(一)

原人ノ昔ヨリ今日ニ至ルマデ時ニ汚隆ヲ免カレズ
 進シテ止マザルモノナリ何レノ人民ト雖也其
 或ハ漁獵ヲ事トシ或ハ遊牧ヲ業トシ未ダ一
 定ノ居所ヲ有セズ水草ヲ追フテ轉徙セル者ナリ既ニシテ人口次第ニ
 繁殖スルニ至リ單ニ天産物或ハ蓄類ノミニ依頼スベカラズ且ツ漁獵
 ノ如キハ全ク天氣ノ都合ニヨルモノナレバ若シ連日風雨打續キ獲物

ナキ時等ニハ食物ヲ得ルコト極メテ難カルベク其他種々ノ不都合不
 便利ヲ感ズルト同時ニ人智モ亦漸ク進ミタレバ茲ニ始メテ家室ヲ構
 ム土地ヲ耕シ有無ヲ通ジ以テ村落市邑ヲナシ以テ一國ヲ形作ルニ至
 レリ史學ハ即チ一國ヲ形作リタル人民ノ發達進歩ヲ研究スルモノニ
 シテ其以前未タ國民テフ一團體ヲナサマル時ノコトハ此ノ學問ノ關
 係スル所ニアラザルナリ

文明ノ發達ハ主トシテ土地及ヒ氣候ノ如何ニ由ルモノナリ今輿地圖
 ヲ披キ之ヲ按ズルニ亞弗利加ノ北方ヨリ支那ノ北邊ニ至ルマデ一帯
 ノ沙漠アリテ其中斷スル處ハ何レモ大河流レ土地頗ル豐饒ナリ古代
 ノ文明ハ皆此際ニ於テ發生セルモノニシテ即チサハラト亞刺比亞ノ
 沙漠間ニハナイル河^{ニル}アリテ埃及國^{エジプト}此處ニ起リ亞刺比亞ト波斯亞弗干^{ペルシヤアフガニスタン}
 ノ沙漠間ニハチグリヌ、ユーフレーツ河^{ユーフラテス}アリテ巴比倫尼亞^{バビロニア}及ヒ亞述^{アッシリア}ノ

兩國此間ニ起リインダス河ハ波斯亞弗干ノ沙漠ト西藏^{チベット}ノ高原トノ間
 ヨリ發シテ印度國其近傍ニ起リ揚子江、黃河ハ西藏ノ高原トゴビ、シヤ
 モノ兩沙漠間ヨリ發シテ支那ノ文明此際ニ起レリ蓋シ此地方ハ氣候
 暖温ニシテ土地豐饒ナルヲ以テ人民衣食ニ窮スルコトナク隨ツテ又
 人口速ニ繁殖シ文明ノ進歩モ遙ニ他ノ地方ニ先チタリ彼ノ尖塔^{ピラミッド}ノ建
 築ノ如キ實ニ紀元前二千四百餘年ニアリ其ノ進歩知ルベキナリ不幸
 ニシテ東洋ノ文明ハ其制度ノ宜シキニ適セザリシ等種々ノ原因ニヨ
 リテ充分ノ發達ヲ遂グル能ハザリシモ尙希臘ニ入リテ其開明ヲ助ケ
 羅馬人之ヲ受ケテ歐洲全土ニ播キ遂ニハ大西洋ヲ越エテ遠ク亞米利
 加ニモ及ベリ獨リ支那ノ文明ハ東漸シテ朝鮮日本ニ入リタルノミ其
 發達モ亦充分ナラズ世界全体ノ文明トハ其關係極テ疎ナリトス故ニ
 余ハ此等ヲ措テ論ゼズ唯彼ノ支流ノ集マリテ遂ニ大河ヲナス如ク此

十九世紀ノ文明ヲ作り出シタル諸國ノ歴史ヲノミ述ベントス
 然ラバ即チ如何ナル人種ガ果シテ此處ニ記載サル、ベキ光榮ヲ有ス
 ルカ他ナシコ^ルカサス人種即チ白哲人種ナリ白哲人種ヲ大別シテ三
 ツトス第一ハアリアン派ニシテ波斯人印度人及ビ歐羅人皆之ニ屬シ第
 二ハセミチツク派ニシテ亞述人希伯^{ヘブライ}流人^{ユダヤ}啡尼西亞人及ビ亞刺比亞人
 之ニ屬ス第三ハハミチツク派ニシテ加爾底亞人及ビ埃及人ヨリ成ル
 此三大區別ハ全ク原語ノ異同ニ原ヅキ立テタルモノナレドモ同時ニ
 又文明ノ有様モ互ニ異ナレリ即チハミチツク人種ハ建築術ヲ以テ秀
 テセミチツク人種ハ宗教心最モ發達シ猶太教耶蘇教及ビ回々教ノ如
 キ一^{モノモイスマ}神教ハ皆此人種中ヨリ起レリアリアン人種ハ智力他ニ勝レ活潑
 有爲ニシテ世界ノ文明ニ關係アル亦之ニ如クナシ
 抑モ世界ノ文明ハ恰モ一帯ノ長流ヲナシ前後相鍵關シテ區分スベカ

ラズト雖^モ今便宜ニヨリ之ヲ分チテ三期トス第一ハ古代史ニシテ埃
 及印度等古代諸國ノ建立ヨリ紀元後四百七十六年西羅馬帝國滅亡ノ
 時マデトシ第二ハ中世史ニシテ西羅馬ノ滅亡ヨリ紀元後十五世紀ノ
 終リ迄トシ第三ハ近世史ニシテ十六世紀ノ始メヨリ現今ニ至ル迄ト
 ス

中世史ノ終リハ歴史家ニヨリテ各執ル處ヲ異ニシ或ハ千四百五拾
 三年東羅馬ノ滅亡マデトスルアリ或ハ千五百十七年宗教改革ノ始
 ノ迄トスルアリ今暫ク普通ノ法ニ從ヒ十五世紀ノ終リマデトス

第一篇 古代史

古代史ニ於テ述ブベキモノハオリエンタルステイツ東洋諸國及ヒ希臘羅馬ノ歴史ト
 ス東洋諸國トハ埃及、巴比侖尼亞、亞述、希伯流、腓尼西亞、亞刺比亞、
 印度、波斯等ノ總稱ナリ

第一章 埃及國

古代諸國中文明ノ進歩速カニシテ且ツ其歴史ノ最モ古キモノハ埃及
 ニ若クモノナシ蓋シ年々六七月ノ頃ヨリナイルノ河水溢レテ兩岸ヲ
 蔽ヒ水退ク時ハ其跡一面ニ粘土ヲ貽スヲ以テ土地肥沃ニシテ五穀豐
 熟シ一人ノ小兒ヲ丁年マデ養育スルニ僅カニ四弗ニシテ足レリト云
 フコレ此國ノ人口速ニ繁殖シ文明ノ進歩亦著シカリシ所以ナリ
 埃及ノ建國ハ歴史家ニヨリテ各説ヲ異ニスト雖正紀元前二千七百年

ヲ以テ稍ヤ信ニ近シトス爾來屢正朔ヲ變ヘ第四朝ニ至リテ國勢大ニ振フ尖塔ノ建築モ此時代ニアリシト云フ然レドモ後久シカラズシテ王權衰ヘ群雄四方ニ割據シテ國中大ニ亂ル此際ニ乘ジヒクソスト稱スル野蠻人亞刺比亞ヨリ侵入シ遂ニ全國ヲ并吞セリ之ヨリ爭亂愈絶ニス千五百二十七年國民奮起シテヒクソストヲ逐ヒ獨立ヲ回復セリ此時ヨリ二百年間ヲ埃及最盛ノ時代トス内ニ在リテハ技藝大ニ進歩シ外ニ在リテハ武威四隣ニ輝キタリ然レドモ人民治ニ狎レテ元氣ヲ失ヒ國勢再ビ衰ヘ終ニ紀元前五百二十五年波斯王カムビセスノタメニ亡ボサル後又アレキサンドルノ版圖ニ入り王死スルニ及ビ其將トレミイ之ヲ領シ子孫相傳ヘテ紀元前三十年女王クレオパトラノ世ニ至リ此世界ノ最古國モ遂ニ羅馬ノ郡縣トナレリ

埃及ハ世襲ノ專制王國ナレドモ實權ハ僧侶ノ手ニ在リ此國ノ人民ハ古

ヨリ僧侶武士及ヒ平民ノ三等級ニ分タル僧侶ハ最モ富ミ最モ勢力アルモノニシテ單ニ宗教上ノ事ヲ掌ルノミナラズ兼テ醫術法律數學等ヲモ修ム次ニ武士ハ專ラ武術ヲ講シ戰起ル時ハ兵甲ヲ帶ビ王ニ從テ命ヲ受ケシム王ハ僧侶及ヒ武士ト共ニ國內ヲ三分シテ其一ヲ有テ平民ニ貸與シテ收穫ノ五分ノ一ヲ納メシム平民ハ農工商等ニシテ一切政權ヲ有セズ又土地ヲモ所有スル能ハズ此等ノ等級ハ父子相繼キ決シテ變スベカラザルモノニシテ如何ニ才能アルモ上級ニ進ム能ハズ故ニ人民ノ競争心自ラ滅シ埃及衰頽ノ一大原因ヲナセリ且ツ其宗教モ始メハ稍ヤ高尚ナリシモ後ニハ變シテ猫猿鷹牛等ヲ拜スルニ至リ一層人心ノ卑屈ヲ致セリ

埃及ノ美術中見ルベキ者ハ建築術ニシテ宏大ヲ以テ著ハル尖塔中最モ大ナルモノハ高サ四百八十呎底邊七百六十四呎ニシテ一石ノ重量

千六百噸ニ過グルモノアリ之ヲ建築スルニハ十萬ノ工夫ト三十餘ノ
 星霜トヲ以テセリト云フ實ニ此等ハ專制國君ノ餘威ニ成リタル遺物
 ナルニモセヨ亦以テ土地豐饒人民衣食ニ窮セザリシヲ見ルニ足ル彫
 刻及ビ繪畫ハ尙ホ極メテ粗造ナリシ蓋シ采色等ニハ僧侶ノ一定セル
 法則アリテ技術家モ之ヲ破リ己ノ意匠ヲ逞フスル能ハズ其進歩セザ
 リシコト固ヨリ恠ムニ足ラザルナリ學問ハ稍ヤ進歩シ天文幾何醫學
 等ニモ少シク通ジタリト云フ埃及ノ文字ハヒエログリフツクト稱シ
 其始メハ亞米利加印度人ノ用ユル如キ象形文字ノヨナリシモ後ニハ
 次第ニ變化シ今日ハ全ク其跡ヲモ見ザルニ至レリ要スルニ埃及ノ文
 明ハ一時ハ大ニ進歩セシモ僧侶ノ專横等ニヨリテ充分發達スル能ハ
 ズ却ツテ退歩シ以テ今日ノ衰頹ニ及ベリ

第二章 巴比倫尼亞及比亞述國

テイギリス及ビユーフレツ河岸ハ土地豐饒ニシテ遠キ昔ヨリ人口繁殖
 シ加爾底亞亞述及ビ巴比倫尼亞ノ三王國相繼テ起レリ加爾底亞國ハ
 一名前巴比倫尼亞ト稱シ紀元前二千三百年頃ニメロドナル者國ヲ建
 テ首府ヲ巴比崙ニ定ム爾後千餘年ヲ經亞述ノ爲ニ亡ボサル一亞述人
 既ニ加爾底亞ヲ亡ボシ尼々府ニ都ス其盛ナルニ當リテハ遙傍諸國ハ
 勿論埃及ノ如キモ其版圖ニ歸セリ然レテ反亂常ニ止マズ紀元前六百
 二十五年馬太人ノ入寇ニ際シ加爾底亞人ノト合シテ尼々府ヲ陷レ亞
 述王國遂ニ亡ブ一亞述王國亡ビ加爾底亞王國再ビ起ル之ヲ後巴比倫
 尼亞ト稱スチゾカド子ザルノ時ニ至リ隆盛其極ニ達シ首都巴比崙ノ
 如キハ結構壯麗人目ヲ驚カセリ(今日ノ倫敦ト雖モ其周圍僅ニ巴比倫
 ノ五分ノ一ニ過ギズト云フ)然レテ其後數十年ヲ出デズシテ波斯人ノ
 爲ニ滅ボサレ世界奇觀ノ一トシテ數ヘラレタル巴比倫モ今ハ斷趾荒

墟空シテ狐狸ノ徘徊ニ任スノミ
 亞述人ハ彫刻ヲ善クシ象嵌鍍金等ノ術ヲ知り或ハ槓杆、輻輳ヲ用ヒ穹
 狀ノ理ニヨリテ水道隧道ヲ作ル等其他日用ノ技術ニ於テ殆ト通ゼザ
 ルモノナシ巴比侖尼亞人ハ建築術ニ長シ且ツ才學他ニ秀テ古代ノ學
 問ハ殆ト皆濫觴ヲ此處ニ發セリト云フ殊ニ天文學、數學ノ如キハ最モ
 早ク進歩シ前巴比侖尼亞ノ時ヨリシテ既ニ晝夜平分ノ期ヲ知り且ツ
 日時計ヲ製シテ時間ヲ測リタリト云フ(アレキサンドル東征ノ時既ニ
 千九百三年前ヨリ天象ヲ觀測シテ之ヲ記載セルモアリト云フ)蓋シ
 此地方タル廣原漠々雲霧少ナク殊ニ夜間ハ一天澄清ナルヲ以テ星宿
 ヲ窺フニ便アリシナリ政体ハ皆世襲ノ專制王國ニシテ宗教ハ共ニ多
 神教ナリ其文字ハ所謂楔形文字ニシテ今日學者ノ解セルモノハ三百
 字ニ近シト云フ

第三章 希伯流史

此國人ハ元來居處ヲ定メザル牧畜者ナリシガ紀元前千三百二十年頃
 カナンノ地ニ國ヲ定メ千年前後ニ至リダビッド、ソロモン等ノ明君出デ
 一時ハ威ヲ振ヒタルモ久シカラズシテ衰ヘ或ハ他ノ屬國トナリ或ハ
 獨立シ此ノ如クナルモノ數百年遂ニ紀元前六十三年羅馬ノ大將ポン
 ペイノ爲メニ亡ボサレ其叛亂常ナキヲ以テ都府ヲ燒カレ人民四方ニ
 散亂セリ

文學、技術、商業共ニ進歩セズ唯宗教ノ思想ノミハ頗ル發達セリ今日世
 ニ舊約全書ト稱スルモノハ即チ希伯流人ノ經典ナリ政体モ始メハ神
 政ニシテ僧侶神意ヲ探リ萬事ヲ處置セシガ後ニハ王政トナレリ

第四章 腓尼西亞史

腓尼西亞ハリハノン山脈ヲ負ヒ地中海ニ臨ムル一小國ニシテ國中ニ

ハ數多ノ都府分立シ各獨立ノ君主ヲ戴キテ別ニ統一スル所ナカリシ
 都府ノ中最モ有名ナルハシドン及ビタイルニシテ紀元前十一世ノ頃
 ヨリ盛ニ航海通商ニ從事シジプラルタルヲ越エテ遠クバルチック海ノ
 諸島及ビ英國ニ至リ琥珀錫其他ノ物品ヲ齎シ歸レリ且ツ又地中海沿
 岸波斯灣頭等到ル處ニ殖民地ヲ設ケ亞弗利加ノ加爾勢地西班牙ノカ
 デイズノ如キ亦其一ナリ通商ヲ便ニセルヲ以テ當時ノ海上貿易ハ全ク
 腓尼西亞人ノ掌握ニ歸セリ此ニ於テ近隣ノ諸國皆其殷富ニ垂涎シ亞
 述巴比侖尼亞波斯人等相踵テ此國ヲ侵掠シ殊ニ希臘加爾勢地ノ貿易
 次第ニ隆盛ニ赴クニ從ヒ腓尼西亞人モ海上ノ權ヲ失ヒ商業頓ニ衰頽
 ヲ致セリ要スルニ此國人ハ自ラ文明ヲ創造セシコナキモ或ハ通商ニ
 ヨリ或ハ殖民ニヨリ埃及亞述巴比侖尼亞等ノ文明ヲ四方ニ傳播セル
 ノ功ハ又決シテ尠少ニアラザルナリ殊ニ古今ノ最大發明トモ云フベ
 キアルハベットハ此國人ノ始メテ作りタルモノニシテ希臘人之ヲ受ケ

羅馬ニ傳ヘ其間少シツ、變化シテ遂ニ今日ノ羅馬字トナレリ

第五章 印度史

一般歴史家ノ説ク處ニヨレバアリアン人種ハ其昔波斯ノ東北バクテ
 リアノ近傍ニ住シ既ニ耕作ノ法ヲモ知り復純然タル野蠻人ニハアラ
 ザリシガ歴史時代ノ前ニアリテ分レテニツトナリ一群ハ西シテ歐洲
 ニ入り一群ハ南シテ波斯印度ニ入り國ヲ建テタリト云フ印度ニハ古
 ヨリ人民中ニ四ケノ等級アリ第一ハ僧侶ニシテ宗教上ノ事ヲ掌兼
 テ又哲學ヲ修ム(波羅門)第二ハ軍人及ビ官吏(釋帝羅)第三ハ商人及ビ農
 夫(吠舍)第四ハ工人其他諸種ノ賤役者(戒陀)ニシテ殆ト奴隸ニ等シク此
 下ニ又アラオストテ穢多ノ如キモノアリタリ各級相雜婚スルコトヲ
 禁シ且ツ父子其職ヲ世ニスルヲ埃及ニ異ナラズ蓋シアリアン人印度

ニ來リテ舊來其地ニ住セル黑人種ヲ征服シ其間ニ區別ヲ保メシガ爲メ此ノ如キ制ヲ定メタル者ニシテ *caste* (等級ナル印度語モ「色」ノ義ニ外ナラズト云フ巴羅門ノ宗教ハ所謂万有教ニシテ宇宙萬物ヲ以テ神トナシ且ツ靈魂輪回ノ説ヲナセリ後其腐敗シテ種々ノ弊害ヲ生ズルニ至リ紀元前六世紀ニ釋迦牟尼出テ一切ノ人類ハ皆平等ニシテ少シモ差等ナキヲ説キ其他大ニ宗教上及ヒ社會上ハ改良ヲ圖レリ爾來佛教ノ勢力日ヲ追フテ盛ナリシガ波羅門宗徒之ヲ忍レ遂ニ盡ク佛教徒ヲ國外ニ放逐セリ佛教徒ハ逃レテ錫蘭ニ隱レ西藏ニ入り更ニ支那朝鮮日本等ニ傳播シ現今世界人口ノ四分ノ一ハ佛教信者ナリト云フ

第六章 波斯史 附馬太史

馬太人モ亦アリアン人種ノ一派ニシテ波斯人ト共ニ久シク亞述王國ノ支配ヲ受ケシモ紀元年六百二十五年ニ至リ巴比倫人ト力ヲ協セテ

亞述ヲ亡ボシ之ヲ分領セリ波斯王カムビセス亦其屬ニ服シ其子サイラスヲ送リテ質ヲラシムサイラス幼ニシテ大志アリ馬太ニ在ルヲ數年逃レテ波斯ニ歸リ時機ヲ得テ馬太ヲ亡ボシ爾後二十餘年間兵馬ノ間ニ奔走シテ東ハイニダス河ヨリ西ハヘルレスポントニ至ルマデ波斯ノ領地ヲ擴張セリ其子カムビセス埃及ヲ征服シ次デダライアス一世位ニ上ルニ及ビ全國ヲ區分シテ二十州トシ一州毎ニ都督ヲ置キ更ニ官道ヲ開キ驛遞ノ制ヲ立テ以テ往來通信ヲ便ニセリサイラスノ鴻業此ニ至リテ大成シ帝國ノ基礎鞏固ニシテ動カスベカラズ波斯人ガ二百餘年間西南亞細亞ノ全部ヲ支配セシハ一ニダライアスノ遺制ニ由ルナリ王晩年ニ至リ希臘列國ト戰端ヲ開ケリ然レドモコハ希臘史ニ於テ説クベキヲ以テ此處ニハ之ヲ略ス

波斯人ハ質朴ニシテ學問ヲ好マズ唯劔ヲ擊テ武ヲ講ズルノミ又製造

貿易ヲ賤シキ之ニ從事スルコトヲ屑シトセザリシガ後次第ニ固有ノ性質ヲ喪ヒ東洋一般ノ卑屈柔弱ナル人民トナレリ其宗教モ始メハ一神教ナリシモ後ニハ變シテ偶像及ビ火ヲ拜スルニ至レリ

第七章 希臘史

第一節 總論

希臘ハ三面皆海ニ濱シ港灣出入スルヲ以テ舟楫ノ便少ナカラズ氣候温暖ニシテ頗ル健康ニ適セリ國中ニハ山嶽起伏シ之ガ爲メ數多ノ小邦分立シテ各獨立ヲ競ヒ人民亦自由ヲ尊重セリ且ツ一葦水ヲ隔テハ小亞細亞、腓尼西亞、埃及等ト相對スルヲ以テ文明ノ進歩速ニ又著シカリシナリ

此天然ノ美土ニハ始メペラスギイト稱スル人種住居セシガ後アリアシ人種ノ一派ナルヘレン人ノ爲メニ征服サレタリト云フ(希臘並ニ其

近傍ハ昔シヘラスト稱ヘタルモノニシテ羅馬人之ニ希臘ナル名ヲ與ヘシヨリ今日ニ至ルマデ其稱ヲ用井來レリ)ヘレン人ヲ分チテ四種トス第一ドーリアン人、第二アイオニア人、第三エオリアン人、第四アカイアン人は是ナリ此中ドーリアン人及ビアイオニア人ハ最も重要ナルモノニシテ其性質大ニ異ナレリドーリアン人ハ風俗質朴ニシテ舊風ヲ墨守シ商業美術ハ其最も嫌フ所ニシテ且ツ貴族政体ヲ愛セリ之ニ反シテアイオニア人ハ華美ヲ好ミ進取ノ氣象ニ富ミ商業美術ヲ愛シ又大ニ民主政体ヲ主張セリ此ヲ以テ其間常ニ相容レズ希臘ノ歴史ハ要スルニ此兩人種間ノ争ニ過ギズ而シテ此兩人種ヲ代表スルモノハ即チ斯波多ト雅典ノ二府ナリ故ニ以下ニ於テハ專ラ二府ノ興亡ヲ説カントス

第二節 太古史

何レノ國ヲ問ハズ太古ノ歴史ハ荒誕不經ニシテ信ヲ措クニ足ラズ希臘ニ於テモ亦然リトス彼有名ナルトロイ戦争ノ如キモ半ハ後人ノ虚構ニ成リタルモノナラント云フ紀元前千百年頃ニ至リ人種ノ移轉起リドリアン人ハペロポネサスヲ征服シアイオニア人ハアッチカヲ占メ兼テ近傍ノ諸島及ビ小亞細亞ノ海邊等ニ殖民セリ(マッサリア即チ今ノマルセイユ港モ亦希臘ノ殖民地ナリ)此等ノ殖民地ハ氣候暖和ニシテ土地肥エ且ツ東洋諸國ト密接セルヲ以テ文明ノ進歩著ク本國ノ文明ハ皆此地方ヨリ輸入セルモノナリ

希臘ノ正史ハ紀元前七百七十六年ニ始マレリ之レヨリ先キ希臘列國ハ皆王政ノ下ニアリシヲ疑ナシト雖正史ノ始マル頃ニハ斯波多ヲ除ク外皆民主政治ナリ

第三節 斯波多及ビ雅典ノ隆興

前ニ述ベシ如ク斯波多人ハ土人ヲ從ヘ威ヲペロポネサスニ振ヘリ然レモ人口少ナク僅ニ舊來住民ノ十分ノ一ニ過ギズ故ニ其ノ權力ヲ維持セント欲セバ勢ヒ武ヲ盛ニシ兵ヲ鍊ラザルベカラズ此ヲ以テ紀元前八百五十年頃ライカルガスナル人出テ新ニ制度ヲ定メテ其法ニヨルニ人民ノ財産ハ多ク共有トシ微弱ナル兒童ハ棄テ唯強壯ナルモノノミヲ養ハシム男兒七歳ニ至レバ父母ノ膝下ヲ離シテ公立育兒院ニ入レ嚴峻ナル教育ノ下ニ成長セシム斯クテ六十歳ニ至ラザレバ兵籍ヲ達スル能ハズ(婦人モ亦体育ヲ怠ラズ隨ツテ其心モ雄々シク)汝ノ楯ヲ提テ歸レ然ラズンバ其上ニ臥シテヨトハ實ニ彼等ガ其子ノ出陣ヲ送リタル辭ナリシナリ)且ツ商業ヲ禁シ美術ヲ斥ケ金銀錢ヲ廢シテ鉄錢ヲ作り以テ運搬取引ヲ不便ニセリ斯ク此法ハ唯武ヲ盛ニスル爲メニ立テタルモノナルヲ以テ其結果タル大ニ斯波多ノ武力ヲ強ク

セシト雖此文明ハ少シモ進歩セズ古來希臘人が誇レル文學技術ノ點ニ於テハ此國人ハ少シモ關係ナキナリ斯波多ニハ二人ノ王アリテ兵士ヲ總督シ且ツ祭祀ヲ司ドレリ然レモ實權ハ元老院及民會ニアリ民會ヨリ年々五人ノ執政官ヲ撰ビ萬機ヲ攝セシム

王政ノ滅スルヤ雅典ニテハ大頭領ヲ撰ビ政務ヲ總攬セシム大頭領ハ始メハ一人ニシテ終身官ナリシモ後ニハ九人トナリ其在職期限モ減ジテ一年トナレリ又議政官アリテ國政ヲ評議セリ此ノ如ク共和ノ体裁ヲナセシト雖此當初大頭領及ビ議政官トナルモノハ皆貴族ノミニ

ノ平民ハ全ク政權ナク貧困ノ餘リ身ヲ賣リテ貴族ノ奴隸トナルモノモ亦少ナカラズ且ツ成文律ナキヲ以テ貴族ハ擅ニ平民ヲ壓制シ專横至ラザル所ナシ紀元前六百二十四年ニ至リドウラコナルモノ成文律ヲ作り以テ國法ヲ一定セシト雖モ其法慘刻ニ過ぎ却テ平民ノ不幸ヲ

124
194
2

増セリ此ニ於テ平民不平シテ貴族ニ抗シ政令行ハレズ殆ンド無政府ノ有様ヲナセリ幸ニシテ紀元前五百九十四年ソロン出ルニ及ビ法律ヲ改正シ官吏ハ其職務ニ對シテ責任アルモノトシ負債ヲ減シ奴隸ヲ廢スル等種々ノ改良ヲナシ平民ハ貴族ト同等ノ位置ニ進マザリシモ皆參政ノ權ヲ有スルニ至レリ此新憲法ハ實ニ雅典隆盛ノ基礎ニシテ其後紀元前五百十年ニ至リクリッセス大頭領トナリ更ニ制度ヲ更メテ純粹ノ民主政体トセリ此ニ於テ雅典人ハ皆自由同等ノ權ヲ得愛國ノ精神勃興シ遂ニ彼等ヲシテ中央希臘ニ雄視セシムルニ至レリ

第四節 波斯戰爭

以上述ブル如ク雅典及ビ斯波多ノ二府ハ殆ト同時代ニ盛大ニ赴キ今ヤ雌雄ヲ中原ニ爭ハントスルニ際シ波斯人ノ侵入アリシヲ以テ互ニ私怨ヲ棄テカヲ協セテ公敵ヲ防グリ此時ニ當リ波斯王ダライアスハ

廣大ナル領地ヲ有シ小亞細亞ニアル希臘ノ殖民地モ亦其版圖ニ入レ
 リ後殖民人獨立ヲ企ツルニ及ビ雅典人兵ヲ出シテ之ヲ助ケ波斯領ノ
 都府ヲ燒キシカバダライアス大ニ怒リ希臘全土ヲ蹂躪セント欲シ紀
 元前四百九十三年大軍ヲ送リテ海陸並ビ攻メシム然レドモ兩軍途ニ
 難ニ遭ヒ空シク歸ルダライアス益怒リ四百九十年再ビ大軍ヲ募リ希
 臘ニ向シム波斯人アッチカニ上陸ス雅典ノ名將ミルシアデス伐テ之ヲ
 破リ波斯ノ殘卒皆逃レ歸ル是レ實ニ有名ナルマラツソノ戰ナリ
 是ヨリ雅典ノ勢ハ愈盛ニシテ殆ド斯波多ヲ凌駕セントスミルシアデ
 ス幾何モナクシテ罪ヲ得獄中ニ死シタレモ他ニ二人ノ豪傑出タリ一
 ヲセミストクルスト云ヒ敏捷果斷ナル政事家ニシテ大ニ海軍ニ力ヲ
 用弁以テ波斯ノ來寇ニ備フベシト主張シ又一ハアリスタイデスト云
 ヒ廉潔方正ノ愛國者ニシテ海軍擴張案ニ反對シ烈シク之ニ抵抗セシ

カバ國民遂ニアリスタイデスヲ國外ニ放逐セリ是ヲ以テセミストク
 ルス自由ニ其意ヲ行フヲ得盛ニ船艦ヲ製造シ以テ敵ノ來襲ニ備ヘタ
 リ
 之ヨリ先キダライアスハ再度ノ耻辱ヲ雪ガント欲シ盛ニ軍備ヲ整ヘ
 居タルガ中途ニシテ死シタルヲ以テ其子ザークセス父ノ遺志ヲ繼ギ
 遂ニ紀元前四百八十年第三回ノ遠征軍ヲ送レリ古記ニヨルニ此時波
 斯ノ軍勢ハ兵士水夫合シテ二百五十万人戰艦千二百餘艘ヨリ成リタ
 リト云フ此古今無雙ノ大軍ハヘルレスポントヲ横リスレトスマセド
 ンノ海岸ニ沿フテ南下ス斯波多王レオニダス僅ニ七千人ヲ率弁テセ
 ルモヒリノ險ヲ扼シ波斯軍ヲ止ムルヲ二日遂ニ支フル能ハズ三千
 ノ斯人皆之ニ死ス敵兵勢ニ乗ジテアッチカニ侵入シ長驅雅典ニ向フ雅
 典人皆船ニ乘リ先ヅ遁ル十一月雅典ノ艦隊波斯ノ艦隊トサラミスニ

スルマセド

7000

戰ハ大ニ之ヲ破ルザイヤセス身ヲ以テ逃ル翌年九月ミタール及ビ
 ヲテイノ兩戰ニテ波斯ノ殘兵全ク破ラレ波斯戰爭終ル
 此戰爭ハ實ニ歷史上最モ重大ナル出來事ノ一ニシテ若シ希臘人敗劔
 シタランニハ永ク東洋專制ノ下ニ苦シミ其自由其文明モ恐ラクバ生
 存發達スル能ハズ隨ツテ又歐洲ノ文明モ果シテ今日ノ盛大ヲ致シタ
 ルヤ否ヤ頗ル疑ハシキコト云フベシ

第五節 ペリクルスノ時代

希臘人が掌大ノ地ヲ守リテ波斯ノ大軍ニ抗シ遂ニ之ヲ擊破セルハ主
 トシテ雅典及ビ斯波多二府ノ力ニヨレリ此ニ於テ二府ノ勢力ハ遙ニ
 他國ノ上ニ位シイシアン海ノ諸島及ビ海岸ノ都府ハ皆同盟シ雅典
 ヲ推シテ盟主トナシ内地ノ諸邦ハ隱然斯波多ニ服セリ雅典ニテハセ
 ミストクルス罪ヲ得テ放逐セラレアリスマイデスハ波斯戰爭中本國

480
 96
 — 100

へ喚還サレ爾來大ニ國民ノ尊敬ヲ受ケシモ久シカラズシテ死ス然レ
 正雅典終ニ英傑ニ乏シカラズ次テペリクルス出テ政權ヲ握ルニ至リ
 増國力ヲ盛ニシ文明ヲ獎勵セシカバ雅典ハ此時ヨリ文學技術ノ中心
 トナリ詩文彫刻建築等皆其巧妙ノ極ニ達シ且ツ演說術モ大ニ進歩シ
 能辯家輩出セリ此時代ヲ名ケテペリクルスノ時代ト云フ即チ紀元前
 四百八十年ヨリ同シク四百三十年ニ至ルマデ前後五十年間ニシテ當
 時文華ノ盛ナル古今其比ヲ見ザル所ナリ

第六節 ペロポネ子サス戰爭及ビ齊武士戰

爭

盛ノ極ハ衰ノ始メ汚隆ハ數ノ免カレ難キモノナリ雅典ハペリクルス
 ノ時代ニ於テ隆盛ノ頂ニ達シタルモ其人心ハ既ニ腐敗シ同盟諸國モ
 亦雅典人が威力ヲ恃ミ私多キヲ見テ不平ヲ懷クモノ少ナカラズ殊ニ

斯波多ト雅典トハ全ク政体風俗等ヲ異ニスルヲ以テ其間ニ平和ヲ維持セシトハ到底望ムベキニ非ズ此ヲ以テ一旦外寇ノ終ルヤ二府ノ歐意ハ一日ニ長シ遂ニ紀元前四百三十一年ニ至リ破裂シテペロポネ子サス戦争トナリ二十七年間内亂引續キ其結果タル唯ニ雅典ノ威力ヲ墮シタルノミナラズ希臘全國ノ衰頹ヲ招ケリ

斯波多人既ニ雅典ヲ倒シ武威ヲ恃ミテ列國ヲ壓制セリ此時ニ當リ齊武士ニエバミノンダス及ビペロピダスナル二人ノ英雄アリテ國人ヲ勵シ斯波多人ニ抗シテ之ヲ破リ(齊武士戦争)齊武ハ一蹴シテ希臘列國ノ長トナリタレモ兩雄死スルニ及ビ其國勢モ共ニ去リ是レヨリ希臘ノ國勢益衰フルニ至レリ

第七節 麻世敦王國及ビ希臘ノ末路

此際ニ乘シ麻世敦王フリッポ大志ヲ抱キ希臘全國ヲ併呑セント欲スデ

118

Alex

モスセニース之ヲ覺リ畢生ノ雄辨ヲ奮テ雅典人ヲ戒メ之ニ備ヘシメントトセシモ當時雅典人ハ愛國ノ熱情已ニ衰ヘ道德腐敗シテ一人モ爲ニ奮起スルモノナク列國皆フリッポノ術中ニ陥リ互ニ相争ヒシヲ以テ紀元前三百三十八年遂ニ其亡ボス所トナレリ

フリッポ既ニ希臘ヲ從ヘ更ニ進ンテ波斯ヲ征セントス成ラズシテ暗殺セラル其子アレキサンダー父ノ志ヲ繼ギ紀元前三百三十四年三萬餘ノ小軍ヲ率非ヘルレスポントヲ渡リ小亞細亞、西里亞、埃及等ヲ席卷シ遂ニ波斯帝國ノ内部ニ入り一戰之ヲ從ヘ更ニ印度ヲ征シ歸リテ巴比倫ニ都セシガ其翌年不幸ニモ夭折セリ是レヨリ帝國分裂シテ四ケトナル此際ニ乘シ希臘人獨立ヲ企テタレモ充分其志ヲ達スル能ハズ或ハ一時獨立セシコアリシモ各邦復相争ヒ一致ノ精神ニ乏シク殊ニ又アレキサンダーノ東征ハ希臘ノ文明ヲ東洋ニ擴ゲント雖モ同時ニ又

Asia Minor, Syria
Egypt, Persia
India

東洋卑屈ノ風希臘人中ニ入り人心愈腐敗シ且ツアレキサンダー埃及ニ在リシトキ地中海岸ニ良港ヲ開キアレキサンドリアト名ケシガ其繁盛頗ル速ニシテ雅典ノ商業文物共ニ皆此地ニ移ルニ至レリ是レヨリ國勢増振ハズ遂ニ紀元前百四十六年羅馬ノ取ル所トナレリ

第七節 希臘ノ文明

第一 政体及ビ宗教

希臘ハ數多ノ小邦ニ分レ其政体風俗等モ國ニヨリテ多少相異ナリタレドモ一般ニ民主政体行ハレ民權頗ル發達セリ國中ニハ大祭四ケアリ最モ大ナルモノヲオリンピックト云フ此等ノ祭日ニハ人民四方ヨリ集リテ武人ハ武藝ヲ闘ハシ文人詩家ハ著作ヲ朗讀シ其他音樂師美術家等皆來リテ云ハキ藝能ノ共進會トモ名クベキモノナルヲ以テ唯ニ文明ノ進歩ヲ促セルノヨナラズ列國平素ノ怨ヲ解キテ一場ニ會合ス

ルヨリ自ラ希臘全体ノ一致ヲ助ケタリ希臘人ノ經典ハホーマーノ神代史ニシテ愛ヲ主トシ東洋諸國ノ宗教トハ大ニ其趣ヲ異ニセリ思フニ印度地方ニテハ山ハ喜馬拉ノ如ク高ク海ハ印度洋ノ如ク廣ク山川風物凡テ人民ノ恐怖心ヲ喚起セザルハナシ故ニ其宗教モ恐怖ヲ基トシ其神トシ信ズルモノハ皆恠シムベク懼ルベキモノナラザルナレ之ニ反シテ希臘ニテハ山川風物皆小佳ニシテ愛スベキヲ以テ其宗教モ亦愛ヲ主トシ人民神ヲ畏ル、ヨリモ寧ロ之ヲ敬愛セリ故ニ人心ヲ卑屈ニスルノ弊ハナカリシモ其神タル極メテ人類ニ近ク人ノ美德ヲ備フルト同時ニ人ノ惡徳ヲモ兼テ神ニシテ猥リニ姦淫スルアリ或ハ竊盜スルアリ要スルニ其性質タル人心ヲ匡正シ道德ヲ維持スルニ足ラズ希臘衰頹ノ一因蓋シ亦此ニ在ルナリ

第二 哲學

紀元前六世紀ニセークルスナル人アリテ世界創造説ヲ唱ヘ希臘哲學ノ始祖タリ是ヨリピサゴラス、ゼノファチス、エンペドークルス、デモクリマス等ノ碩學續々輩出シ甲論乙駁底止スル所ヲ知ラズペリクルスノ時代ニ至リ詭辨家ナルモノ起リ善惡邪正ハ人ノ定メタルモノナレバ如何ナル惡事ヲナスモ人ニ知ラレザレバ決レテ惡業トハ云フ可ラズ又假令ヘ人ニ知ラル、モ巧ニ辨ヲ舞ハシテ非ヲ枉ゲ正トナスヲ得バ少シモ不可ナルコトナシト唱ヘ富家ノ子弟ヲ教育シテ詭辨ヲ學バシメタルヲ以テ道德次第ニ衰廢セリ大聖ツクラテス大ニ之ヲ憂ヒ自ラ摸範トナリテ天下ヲ率非邪説ヲ排斥セシト務メタルニ遂ニ効ナク其高弟プラトー及ピアリストートルニ至リ一ハ高尙ナル哲學家トシテ一ハ該博ナル理學者トシテ今日マデ芳名ヲ傳フト雖モ當時ニアリテハ道德ノ廢頹ヲ救フニ力ナク次テエピキウラス派ストイック派等起リ希臘

哲學ハ尙盛ナリシモ希臘國ハ既ニ滅亡ノ淵ニ臨メリ

第三 文學及ビ美術

希臘ハ山水明媚ニシテ風景ニ富ムヲ以テ人民ノ詩想早ク發達シ王政ノ時代ヨリシテ既ニホーマー、ヘシオド等ノ大家出タリ詩風ハ時勢ト共ニ變化シペリクルスノ時代ニハ淨瑠璃体ノ詩トナリ希臘ノ文學此ニ至リテ其盛ヲ極メタリト云フベシホーマー、ヘシオドヲ除キ詩人中尤モ有名ナルハピンダー、エスカイラス、ソホクルス等ナリ此ノ如ク詩歌盛ニ行ハレタレバ之ニ伴フテ音樂ノ進歩ヲ來タセルコト固ヨリ論ヲ待タス然レモ美術上希臘人ノ最モ長ゼシ所ハ彫刻及ヒ建築術ニシテ古今殆ド其比ヲ見ズ要スルニ希臘人ハ美術的ノ思想ニ富ミ想像意匠ニ巧ミナリシナリ故ニ事實ヲ其儘ニ記述スル所ノ歴史家ノ如キハ甚ダ少ナク僅ニヘロドタス、スレイデス、ゼノフォンノ三氏アリシノミ

799

ハトレス
ノブレリス

吾人ハ今小ニシテ愛スベキ希臘共和國ノ歴史ヲ終リ大ニシテ且ツ恐
ルベキ羅馬帝國ノ歴史ニ移ラントス羅馬人ハ希臘人ト同シクアリア
ン人種ノ一派ニシテ紀元前七百三十九年タイバ―河邊ノパラティーン
山上ニ移リ村落ヲ成セシガ次第ニ四方ヲ蠶食シ終ニ全世界ノ主人ト
ナレリ羅馬史ヲ分チテ三期トス第一王政時代第二共和時代第三帝政
時代是レナリ

第一期 王政時代

此時羅馬人ハ貴族及ビ平民ノ二ツニ分ル獨リ貴族ハ土地所有ノ權及
ビ參政ノ權ヲ有シ王ト雖其意ヲ縱ニスル能ハズ貴族ノ集會ヲ名ケ
テ「コンミッシア、キューリアタ」ト云フ第六代ノ王セルピウス平民ノ權ヲ増
シ以テ貴族ノ專横ヲ制セシト欲シ「コンミッシア、センチュリアタ」ト名タル

國會ヲ起シ平民モ亦之ニ列スルヲ得セシム第七代ノ王タルクニニユー
ス惡虐無道ナリシヲ以テ人民之ヲ逐ヒ二人ノ大頭領ヲ立ツ時ニ紀元
前五百九年ナリ

第二期 共和時代

第一節 貴族ト平民トノ爭

羅馬人既ニ王政ヲ廢シ共和制ヲ立ツ之レヨリ政權再ビ貴族ノ專有ニ
歸シ且ツ平民ハ土地所有ノ權ナキヲ以テ貴族ノ土地ヲ借り耕セシガ
此時外患頻ニシテ儘カニ侵掠ヲ免カレタルモノモ農事ニ力ヲ用ユル
暇ナク爲メニ地代ヲ拂フ能ハサルハ勿論自己ノ生活サヘ支持スル能
ハザルヲ以テ皆貴族ニ金ヲ借り一時ノ困難ヲ凌グリ然ルニ當時羅馬
ノ負債法ハ頗ル嚴峻ニシテ若シ約束ノ期限ヲ誤ルハ債主ハ直ニ負
債主ヲ捕ヘ奴隷トナシテ之ヲ使役シ或ハ之ヲ殺スモ罪ナキヲ以テ平

499

497

970

民ノ不幸云フベカラズ紀元前四百九十三年平民等一致シテ羅馬ヲ去
 リモンス、サーケルニ據リ新ニ村落ヲ開カントス貴族等大ニ驚キ負債
 ヲ免シ奴隸ヲ自由ニシ平民ヲ宥メテ羅馬ニ歸ラシメ同時ニ又護民官
 ヲ置キ平民中ヨリ二人ヲ撰ビ苟モ政府ノ處置ニシテ平民ニ不利益ナ
 リト認メタルコハ直ニ之ヲ禁スルコヲ得セシメタリ是レヨリ後紀元
 四百四十七年ニ至リ大頭領及ビ護民官ヲ廢シ十人ノ執政官ヲ撰ビ成
 文律ヲ編纂セシム之ヲ十二銅標ノ法ト云フ是レ古代羅馬法ノ基礎ナ
 リ然ルニ翌年ニ至リ十人職等平民ヲ壓制シ平民再ビ分離シテモンス
 サーケルニ據リシヲ以テ遂ニ又大頭領及ビ護民官ヲ復シ平民會ニ
 與フルニ貴族會ト同等ノ權ヲ以テセリ之レヨリ多少ノ興廢變化アリ
 タレモ一般ニ平民ノ權力ハ増進シタルガ紀元前三百九十年ゴール人
 ノ侵入ヲ受ケ羅馬ノ市街モ盡ク其燃ク所トナリ平民再ビ困窮ニ陥リ

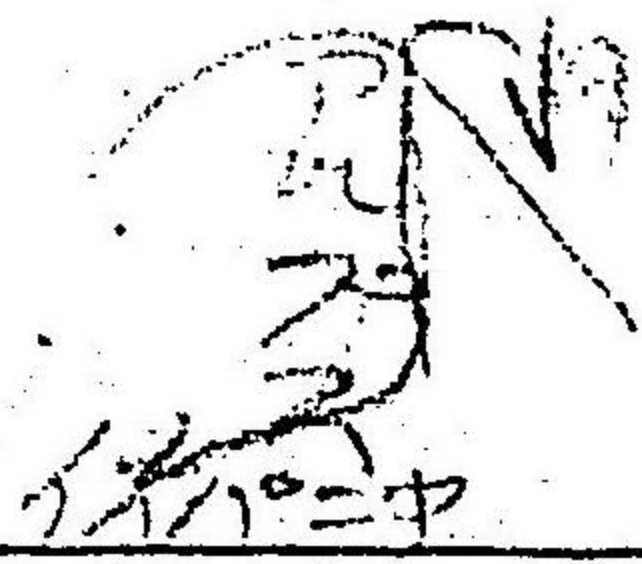
ユリシ
ユリス

タリ然レモリシユニス及ビリニシニス護民官トナリ平民ヲ助ケテ負
 債ヲ減シ土地處有ノ制限ヲ立テ一人ノ所有五百シユングラニ越ユルヲ
 許サズ一シユングラハ凡ソ我が二反余ナリ貴族ノ田地ヲ削リテ之ヲ平
 民ニ與ヘ且ツ平民モ亦大頭領トナルコヲ得セシム此法始ハ頗ル抵抗
 ヲ受ケシモ幾許モナクシテ可決セラレ其他ノ官位モ相尋テ平民ニ與
 ヘラル之レヨリ兩族間ノ爭亂殆ント跡ヲ絶チ國民一致シテ威ヲ外國
 ニ振フニ至レリ

第二節 以太利統一及ビ海外征討

以上略ボ述タル如ク羅馬ニテハ貴族ト平民トノ爭久シク絶エズ王政
 ノ時代ニ於テ得タル所ノ領地モ次第ニ隣國ニ削ラレ緩カニタイパー
 河邊ノ數邑ヲ保ツニ過キズ此ヲ以テ羅馬人ハ先ヅ四隣ヲ伐チ以テ獨
 立ヲ固クセント欲シラテノ戰爭及ビサムニ一ト戰爭ニテ近隣ノ諸邦

ヲ從へ次ニ以太利ノ南方ニ在ル希臘ノ殖民地ト戰ヒテ之ヲ破リ更ニ
 方向ヲ轉シテ北方ニアルゴル人ヲ服シ紀元前二百六十六年ノ終リ
 ニハ以太利全國皆其支配ニ歸セリ
 此ノ如クシテ羅馬人ハ以太利ヲ一統シ内顧ノ憂ナキニ至リタルヲ以
 テ更ニ鵬翼ヲ鼓シ海外諸國ヲ征服セント欲セリ此時ニ當リ羅馬人ノ
 最モ恐ルヽ處ハ加爾勢底人ニシテ亞弗利加ノ北岸地中海ノ諸島ハ西
 班牙ノ一部ヲ有シ其領地ノ廣大ナル亞弗利加ノミニテモ三百餘ノ都
 府之ニ貢セリト云フ然レモ人民自治ノ精神ニ乏シク且ツ純然タル商
 業國ナルヲ以テ尙武ノ風ナク政治亂レ道德廢レタリ此ヲ以テ羅馬人
 ノ銃鋒ニ敵スル能ハズ遂ニ其并吞スル處トナレリ
 此役ハピニツク戰爭ト稱シ前後三回ニシテ紀元前二百六十四年ヨ
 リ同シク百四十六年ニ至リ漸ク其局ヲ結ベリ第一回ノ戰爭ニハ加爾



勢底人始メハ勝ヲ得シモ後破ラレテ和ヲ結ビ第二回ハ此戰爭中最モ
 有名ナルモノニシテ加爾勢底ノ名將ハンニバル西班牙ヨリアルプス
 山ヲ越ヘテ以太利ニ入り連戰羅馬人ヲ破リ羅馬ノ危キコト累卵モ甯
 ナラズ此時羅馬ノ大將スシツピオ奇計ヲ施シハンニバルノ銃鋒ヲ避
 ケテ亞弗利加ニ航シ加爾勢底ノ本國ヲ伐ツハンニバル呼還サレ巴
 ヲ得ズシテ以太利ヲ去リ次テ加爾勢底人和ヲ請ヘリ此兩度ノ戰ニテ
 加爾勢底人ハ武器船艦ノミナラス領地ヲモ盡ク削キテ羅馬ニ與ヘ殆
 ト其屬國トナリタレモ羅馬人ハ猶以テ足レリトセス第三回ノ戰ヲ起
 シ加爾勢底ノ市街ヲ燒拂ヒ老弱男女ノ差別ナク皆其住民ヲ屠戮セリ
 加爾勢底此ニ於テ全ク亡ブ
 羅馬人ハ勝ニ乘シテ麻世敦希臘小亞細亞西里亞等ヲモ征服シ紀元前
 百三十三年ニ至リテハ地中海沿岸ノ諸邦ハ皆其所領ニ歸シ各地ニ統

督ヲ遣シ之ヲ治メ租稅ヲ集メシム羅馬人ハ此等ノ金ヲ以テ盛ニ工事ヲ起シ道路溝渠橋梁等ヲ築造シ數百年前マデハ一小村落タリシ羅馬府モ今ハ世界ノ首都トシテ壯觀繁盛ヲ極メタリ然レ而富ハ遊惰ノ案内者ニシテ此時ヨリ人々奢侈ニ流レ廉直勇武ノ風次第ニ衰ヘ殊ニ此頃ヨリ希臘ノ學者踵ヲ接シテ羅馬ニ來リ羅馬ノ文學亦之ニ由リテ起リタレ而當時希臘ノ文學ハ既ニ腐敗シタルヲ以テ其弊風モ亦大ニ羅馬ニ入り人心ヲ柔弱ナラシメ道德地ヲ拂フニ至レリ且ツ此時ヨリ貧富ノ差大ニ起リ富者ハ屬地ノ人民ヲ以テ奴隸トナシ之ヲ使用シテ農工商ヲ營マシム當時以太利國中奴隸ノ數千二百万ニシテ自由民ハ五百万ニ過キザリシト云フ此ノ如クナルヲ以テ貧民業ヲ失ヒ不平ニ堪ヘズ是等種々ノ原因相合シ遂ニ内亂避クベカラザルニ至レリ

第三節 内亂ノ時代

貴族平民ノ争ハ既ニ去リ富者貧民ノ争方ニ來レリ始メハグラッカス兄弟相繼テ護民官トナリ貧民ヲ助ケテ豪族ノ權力ヲ削ラントセシモ志ヲ得ズシテ斃レ次デシユラ及ピマリ阿斯ノ争トナリ府民ノ之ニ死スルモノ數ヲ知ラズ之レヨリ黨派愈分レ羅馬ノ共和制ハ既ニ去リ殆ンド無政府ノ有様トナリタレバ人民皆大英傑ノ出デ來リテ之ヲ一統シ平和ト秩序トヲ回復センコトヲ欲セザルナシ故ニ此時ニ當リテ只一ツノ問題ハ何人ガ能ク其望ニ應スベキヤノ一事ナリ

此時羅馬ニハポンペイ、クラッサス、ケートー、シセロ等ノ英傑アリタレ而皆其才略天下ヲ一統スルニ足ラズ獨リシイザーハ文武ノ才ヲ兼テ古今稀ナル英雄ナリシヲ以テ人民ノ望ニ應スベキモノ亦彼ニ如クナシ始メシイザーハポンペイ及ビクラッサスト結ビ政府黨ヲ作シテ自ラ羅馬ノ主權ヲ握ラント欲ス之ヲ第一三頭官ト云フシイザー大頭領

二二頁

レハサ
ホノイ
クニ
シセリ
ト

ニ撰バレ任期満ツルニ及ビ請フテゴールノ大守トナリ前後八年間ヲ以テゴール及ビブリテン等ヲ征服セリ此際クラツサスハ東方ヲ征シテ戰敗レテ殺サレポンペイ獨リ羅馬ニアリテ威權ヲ振ヒシガイザーノ威名日ニ盛ナルヲ妬ミ其任期未ダ盡キザルニゴールノ大守タル任ヲ奪ヒ部下ノ兵士ヲ解散セシメントスシイザー大ニ怒リ遂ニ紀元前四百九年兵ヲ率井テ羅馬ニ入りフアルサリアニテポンペイヲ破リボシペイハ逃レテ埃及ニ入り殺サルモセロ及ビケイトーモ亦相尋デ死ス此ニ於テシイザーハ獨リ羅馬ノ政權ヲ握リ農商ヲ盛ニシ曆法ヲ改メ劇場殿堂等ヲ建テ沼ヲ乾カシ河ヲ疏シ其他種々ノ大工事ヲ起シ且ツ地方制度ヲ定メタル等僅々二年間ノ短時日ヲ以テ彼ガ爲メタル偉業ヲ思ハゞ驚愕ノ外アラサルヘシイザー人ト爲リ精悍威アリテ猛カラズ才智絶倫ニシテ兵法、政治、法律、辨論、史學、數學、建築術等一モ達セ

ザルナリ當時羅馬ハ共和政治ノ積弊ヲ受ケ騷擾常ニ絶エザルヲ以テ自ラ舊制ヲ破リ終身インペレーター(インペレーター)ハ大將ノ義ナリ後世ノ「エンペロール」ハ之レヨリ轉訛セルナリノ位ニ上リシト雖取テ其權力ヲ濫用スルコトナク羅馬全体ノ利益ヲ圖レリ此ヲ以テ羅馬ノ人民ハ皆シイザーニ心服セシモ豪族中ニハシイザーノ威權獨リ盛ナルヲ妬ミ共和ト自由トヲ回復スルヲ名トシ密ニ黨ヲ結ビカチアス及ビブルトタス之ガ首領トナリ遂ニ紀元前四十五年シイザーヲ刺殺セリ之レヨリ天下再ビ亂ルシイザーノ甥オクタビウス、アントニイ及ビレピダスノ二人ト結ビ第二三頭官ヲ形作りシモ久シカラステ相爭ヒ終ニオクタビウス全勝ヲ占メテ羅馬ヲ一統セリ此時ヨリ羅馬ハ共和ノ名アレテ其實ナク紀元前二十七年オクタビウス「オーガスタス」至高至尊ノ意ノ稱號ヲ得此年ヲ以テ羅馬皇帝政治ノ始メトス

第三期 帝政時代

第一節 オーガスタスノ治世

此時羅馬ノ領地ハ歐羅巴ノ大半亞弗利加ノ北岸及ビユフレーツ以西小亞細亞ノ地方ヲモ合セ其人口一億ニ下ラザリシオーガスタスハ此等ノ屬地ヨリ得ル處ノ租稅ヲ以テ水道浴場殿堂劇場等ヲ増建シ市民ニハ穀物ヲ配與シ觀劇ト宴會トニ日ヲ消シテ政治上ニ意ヲ向クル暇ナカラシム此時ニ於テ羅馬ノ文學亦盛ニ起リバーシルホレーヌ等ノ如キ名家出タリ然レモ帝ノ在位中最モ記憶スベキ事實ハ耶穌基督ガ猶太ニ於テ生レタルコトニシテ實ニ宗教歷史上最重最要ノ出來事トス

第二節 兵士ノ專横及ビ羅馬帝國ノ二分

オーガスタスノ死後凡ソ二百年間羅馬國ハ尙共和ノ名ヲ存シ議政官

及ビ大頭領ノ如キモ廢リタレモ其實ハ全ク滅シ殊ニ後世ニ至リテハ兵士ノ威權次第ニ増シ賄賂ヲ得テ擅ニ皇帝ヲ廢立シ時トシテハ各地ノ兵營ニテ皇帝ヲ撰ビ同時ニ敵ケノ皇帝並立スルニ至レリ又此時ニ當ツテ北方野蠻人種次第ニ南下シテ境上ヲ侵スヲ以テ皇帝ノ中ニハ羅馬ヲ去リテ北方ニ都ヲ遷シ以テ野蠻人ノ侵入ニ備ヘタルモノ少ナカラズ紀元後三世紀ノ終リニ至リテイオクレシアン帝位ニ即クヤ到底一人ノ力能ク此廣大ナル版圖ヲ支配スル能ハザルヲ看破シ其將マキシミリアンヲ撰ミテ同シク帝位ニ即カシメ帝國ヲ二分シテ各其一ヲ治メ更ニ副帝二人ヲ撰ビテ政ヲ輔ケシムコンスタンティン大帝ニ至リ都ヲビザンテュームニ遷シ再ビ全國ヲ統一ス後數代ヲ經セオドシユース帝卒スルニ臨ミ帝國ヲ東西ニ別チ其二子ニ分與セリ是レ實ニ紀元後三百九十五年ナリ

第三節 西羅馬帝國

始メ羅馬人ガ以太利ヲ一統スルヤ羅馬府民ハ宣戰、媾和、造幣、外交等凡テ政治上ノ主權ヲ專有シ其他ノ人民ハ或ハ自治ノ權ヲ有スルモノアリ或ハ有セザルモノアリト雖モ要スルニ皆中央政府ノ施政ニ向ツテ啄ヲ容ル、能ハズ且ツ羅馬人ハ處々要害ノ地ニ殖民地ヲ置キ以テ反亂ヲ制シ易カラシム次テ海外諸國ヲ征服シ版圖ヲ廣ムルニ及ビ以太利人ニ與フルニ羅馬府民ノ特權ヲ以テシ其他ノ諸國ハ郡縣トシ羅馬ヨリ州牧又ハ總督ヲ派遣シ之ヲ治メシム州郡人民ノ以太利人ニ於ケル關係ハ恰モ猶其昔シ以太利人ノ羅馬人ニ於ケル關係ト異ナラザリシナリ然ルニ州郡ノ人民モ次第ニ羅馬ノ風ニ化シ習慣、言語、思想等ニ至ルマデ悉ク羅馬ト同一ナル狀ニ至リシモノ亦少ナカラズ此ヲ以テ彼等ニモ亦羅馬府民ノ特權ヲ與ヘ其數次第ニ増加セシヨリ終ニハ伊

太利ト州郡トノ區別相混同シ紀元後第三世紀ノ始メニ於テカラカラ帝ハ令ヲ發シテ明ラカニ此區別ヲ廢セリ此ノ如ク羅馬府民ノ特權モ已ニ其價值ヲ失ヒ且ツ府民ハ一般治ニ押レテ武ヲ忘レ兵士ノ如キハ皆野蠻人ヲ雇フテ國防ニ當ラシメタル程ノ事故如何デカ能ク北方強悍ノ野蠻人ニ抵抗シ得ベキ紀元後第四世紀ノ終リヨリビジゴッス、ハンズ等續々踵ヲ接シテ以太利ニ入り當時西羅馬ニハ尙皇帝アリシモ實權ハ全ク蠻民ノ手ニ移レリ紀元後四百七十六年ニ至リ西羅馬帝ロミユルス、オーガスチユルス位ヲ東羅馬帝ゼノニ讓ルゼノ之ヲ諾シ日耳曼人種ノ一酋長オドアースヲ以テ以太利王トス西羅馬帝國此ニ至リテ亡ブ

第四節 耶蘇教ノ弘布

羅馬帝國政治上ノ變革ハ略ホ上ニ述ベタレバ次ニ耶蘇教弘布ノ顛末

ニツキ一言スヘシ基督ノ磔刑ニ處セラレ、ヤ門徒散シテ諸方ニ行キ
 増々其教ヲ弘布ス。オーガスタスノ子子ロ帝ノ世ニ使徒セントポール
 小亞細亞希臘等ヲ歴テ羅馬ニ來リ其教ヲ説ク府民ノ之ニ歸依スルモ
 ノ少ナカラズ。子ロ帝恐レテセントポールヲ始メ其他ノ耶穌教徒ヲ殺
 戮セリ。蓋シ當時羅馬ノ廣キ宗教ノ數亦少カラズト雖モ要スルニ皆多
 神教ニシテ其性質羅馬ノ國教ト甚タシキ徑庭ナカリシカバ羅馬人モ
 亦之ヲ默許シ敢テ禁制スルコトナカリキ然レモ耶穌教ハ一神教ニシテ
 其性質全ク羅馬教ト異ナリ且ツ其教徒ハ熱心ニ異教信者ヲ攻撃シテ
 耶穌教ニ改宗セシメ夜陰ニ密會シテ諸事ヲ談スル等頗ル危險ノ性質
 ヲ帶ブルガ如ク見エシカバ唯ニ子ロノ如キ暴君ノヨナラズトラシヤ
 ン、オーレリアンノ如キ賢君明主ト雖モ猶之ヲ虐待セリ然レモ耶穌教
 徒ハ少シモ屈セズ却ツテ其志ヲ固クシ且ツ四方ニ散シテ増々布教ニ

從事セシカバ皇帝モ亦如何トモスル能ハズ三世紀ノ始メニハ終ニ公
 許ヲ與ヘ次テコンスタンティン大帝位ニ上リ自ラ耶穌ニ改宗シ其教徒
 ノ助ケヲ得テ内亂ヲ戡定セシカバ遂ニ耶穌教ヲ以テ國教トセリ之レ
 ヨリ其傳播頗ル速カナリシ思フニ羅馬帝國ノ統一ハ實ニ耶穌教廣布
 ノ爲メニ大ナル便利ヲ與ヘタルモノニシテ其始メコソ少シク困難ナ
 レタビ勝ヲ制シテ國教トマデナリタル以上ハ帝國ノ各地ニアル異
 教信者ハ破竹ノ勢風ヲ望ンテ自ラ我ニ歸服スベク一撃ノ下能ク其力
 ヲ廣大ナル版圖ニ及ボスヲ得タリシナリ

第二篇 中世史

第一章 總論

羅馬人ハ武器ト共ニ文明ヲ運ビ其屬地ノ蠻民ニ教フルニ製造工業等ヲ以テレ道路ヲ開キ家屋ヲ改良スル等專ラ文化ヲ布クコトニ盡力セルヲ以テゴール人ブリトン人ノ如キモ漸ク野蠻ノ陋習ヲ脱セントスルニ際シ日耳曼人種ノ侵入ニ遇ヒ尋テ西羅馬ノ亡ブルニ至リ天下再ビ亂レ舊時ノ文明ハ殆ト全ク野蠻人種ノ打破スル所トナレリ特ニ第五世紀ヨリ十一世紀マデハゲルマニヤ開世ト稱シ制度文物一モ見ルベキナシ然レ近世文明ハ此紛亂騷擾ノ際ニ於テ知ラズ識ラズ發育シ來リタルモノニシテ十一世紀以後ニハ文明ノ曙光既ニ顯ハレ秩序漸ク整ヒ文化再ビ起シリ

始メアリアン人種ガ歐洲ニ入ルヤ二路ヲ取リタルモノニシテ一方ハ南ニ沿フテ地中海ノ北岸ヲ占メ(希臘人及ビ羅馬人等)一方ハ北ヨリシテ魯西亞日耳曼スカンデナビア等ニ住セリ此中又三大派ニ分レ第一ハケルツ人ニシテブリテン、ゴール、西班牙等ノ地ヲ占メ早ク羅馬ノ文明ニ化セラレタリ第二ハテュートン人即チ日耳曼人ニシテスカンデナビア及ビ北日耳曼ニ住シ羅馬ノ化育ヲ受ケズ性質武勇ニシテ自由ヲ愛シ獨立ノ氣象ニ富メリ此人種又ゴッス、フランクス、アングロ、サクソンス等ニ分レ四世紀ノ終頃ヨリ移轉ヲ始メアングロ、サクソンスハブリテンニ入りフランクスハゴールニ居テ定メゴッスノ一派ナルビジゴッスハ西班牙ヲ奪ヒタリ第三ハスラボニア人ニシテ魯西亞及ビ波蘭等歐洲東北隅ニ住シ世界ノ活劇場ニ顯ハレタルハ近世ノコトノミ故ニ中世ノ歴史ハテュートン人ノ新思想トラテン、ケルツ人ノ舊文明ト相

混和スルノ歴史ナルニ過ギズ此二元素始メハ互ニ相殺ス相搏チ擾亂ヲ極メタルガ後ニハ遂ニ混同銘和シテ文明ノ新天地ヲ作り出セリ蓋シ近世ノ文明ハテュートン人ノ特有ナル自主自由ノ精神ト羅馬人ガ貽シタル制度文物トノ二ツヨリ化成シ來リタリト云フモ決シテ過言ニアラザルナリ

第二章 フランク王国

以上諸種族中フランクス最モ強大ニシテ其會長クロービスナルモノ紀元後五百七年ニ都ヲ巴里ニ定メ尋テ耶蘇教ニ改宗セリ然ルニ其子孫皆暗愚ニシテ政ヲ親ラセズ宰相權ヲ專ラニス七百五十三年回教人西班牙ヨリピレニリス山ヲ越エ佛國ニ侵入スルニ當リ宰相チャールスマーテル伐ツテ之ヲ退ケ歐洲耶蘇教國ヲシテ回教徒ノ蹂躪ヲ免カレシメタリチャールスノ子ベピニ至リ遂ニ有名無實ノ王ヲ廢シ自

ラ代リ立ツ其子シヤールマン繼ア位ニ上リ南征北伐兵ヲ用ウルヲ三
 十餘年遂ニ日耳曼佛蘭西及ビ西班牙ノ北部ヲ并セ以太利ノ主權ヲ得
 テリ蓋シヤールマンノ意ハ舊羅馬帝國ヲ再興シ平和ト秩序トヲ回復
 スルニ在リ故ニ好シテ武ヲ用非シニアラズ八百年法王ヨリ西羅馬皇
 帝ノ冠位ヲ與ヘタル帝性活潑ニシテ逸樂ヲ好マス又大ニ學問ヲ獎勵
 シ耶蘇教ヲ保護シ以テ野蠻社會ヲ改良セシヲ務メタリ然レドモ帝
 ノ死スルヤ久シカラズシテ子孫相爭ヒ帝國遂ニ分裂シテ日耳曼佛蘭
 西及ビ以太利ノ三王國トナレリ

第三章 英吉利王國

英國ハ始メブリタニアト稱セケルツ人ノ一派ナルブリトン人此ニ住
 セシガシイザイアヲ爲メニ征服セラレ爾後四百餘年間羅馬ノ半島國
 家ニシテ五世紀中半頃ニ至リシニブリトン人來リテ土地ヲ領シ



Magna Carta
 re John
 (五五)

中四分五裂戰爭止ム時ナシ九世紀ノ始メニセシキ王ユグアルト始
 テ之ヲ一統シ其孫アルフレッド大王賢明ニシテ久シク英國ヲ安
 シデーン人ヲ破リ文化ヲ布キ天下靜寧ナリ然レド千十七年ニ至リテ
 ーン人再ビ侵入シテ遂ニ國ヲ領シ尋テ千六十六年佛蘭西ノ北部ナル
 ノルマンデー侯ウヰルリヤム部下ノノルマン人ヲ率テ入寇シ全
 國ヲ征服セリ之レヨリ政權全クノルマン人ノ手ニ歸シ官用ノ言語モ
 ノルマンノフランス語ヲ用非從來ノアングロサクソン人ハ全ク其奴隸
 トナレリ然レド彼等亦容易ニ屈從セズ爾後兩人種間ノ不和久シク止
 マザリシガ十三世紀ノ始メニ至リ漸ク怨ヲ棄テ相一致スルノ傾ヲ生
 ゼリ此時英王ジョン暗愚ニシテ外ニハ佛國ニ在ル英國ノ領地ヲ失
 内ニハ政治宜シキヲ得ズ貴族等不平シテ千二百十五年王ニ迫リ憲法
 ヲ定メシム是即チ有名ナル大憲章ニシテ貴族ノ承諾ヲ經ズ擅ニ金銀

二五

ヲ徵集スルヲ禁シ或ハ隨意ニ人民ヲ禁錮シ又ハ處罰スルヲ許サ
 ムル等大ニ王權ヲ制限シ英國自由制度ノ基礎ヲ置ケリ此時マデ英國
 ニハ一ノ議會アリシモ其議員タルモノハ貴族及ビ僧侶ノヨナリシガ
 ジヨソノ子ヘンリー三世ノ代ニ至リ各區ヨリ二名ノ議員ヲ出シ議會
 ニ列セシム之レ英國人民ガ參政ノ權ヲ得タル始メニシテ其後議會分
 レテ二ツトナリ上院下院ノ區別ヲ生ゼリ要スルニヘンリー以後英國
 人民ノ權利ハ年ヲ追フテ伸張セルナリ
 又井ルリヤハ勝王以來英王ハ皆佛國ニ於テ廣大ナル領地ヲ有セ之ガ
 爲メ英佛兩國間葛藤常ニ絶エザリシガ千三百二十八年ニ至リ佛王チ
 ヤールス四世子ナクシテ死シ其弟パロア便ヲイリツブ位ヲ繼グ然ル
 ニ英王エドワード三世ハチヤールスノ甥ナルヲ以テ自ラ佛王トナル
 ベキ權アリシニ據テ兵ヲ率テ佛國ニ入ル之ヨリ十五世紀ノ半ニ至

下

ルマテ戰爭息マズ世之タ百年戰爭ト稱ス始メ佛國ハ大ニ敗レ殆ド滅
 亡ニ及バシトセシモ後次第ニ勢ヲ回復シ遂ニ英人ヲ國外ニ逐ヒ盡シ
 其ノ領地ヲ奪ヘリ之レヨリ佛國ノ勢力頓ニ増加シ十五世紀ノ始メニ
 ハ歐洲中ノ最強國トナリ英國ニテハノルマン人モノルマンデール始
 メ佛國ニアル彼等ノ根據ヲ失ヒタルヲ以テサクソン人ト一致和睦シ
 テ偏ニ英國ヲ愛護スルニ至リ兩人種間ノ區別全ク消滅シ言語モ亦ア
 ソグロサクソン語トノルマンフランス語ト混合シ今日ノ英語ヲ生ズ
 ルニ至レリ之ヲ百年戰爭ノ結果トス尙該戰爭中ノ重ナル事柄ヲ舉ク
 レバ左ノ如シ

ボアデイエーノ戰

千三百五十六年

英軍大勝ヲ得佛王ジョン擒ニセラル越エテ三年ブレチニーノ條
 約成リ英王ハ佛國ノ王位ヲ爭ハザルヲ誓ヒ共報トシテ佛國內

ノアクイティーン及ビカレールヲ得たり
アチンクールの戦 千四百十五年

之レヨリ先キ佛王チャールス五世ブレチニーノ和約ヲ破リアク
イティーンノ大半ヲ回復セリ千四百十五年英王ヘンリー五世佛國
ノ内亂ニ乗ジテ入寇シアチンクールニ於テ佛軍ヲ撃破セリ尋テ
千四百二十年佛國和ヲ請ヒ當時ノ佛王チャールス六世ノ死後ニ
ハヘンリー五世佛王トシ兩國永ク合併センコトヲ約ス然レモ二年ヲ
經ヘンリー及ビチャールス相踵テ死セシヲ以テ此約終ニ行ハレ
ズ兩國再ビ干戈ヲ交エシガ佛軍常ニ利アラズ次第ニ土地ヲ失フ
テ今ハオルレアン城ノミトナレリ此際ニ當リシヤンタールナル
モノ上帝ノ命ヲ受ケテ佛國ヲ救フト唱ヘ婦女子ノ身ヲ以テ軍ヲ
帥ヒ英軍ト戰フテ之ヲ破レリ之レヨリ運命ノ潮流忽チニシテ方

向ヲ變シ英人連敗シテ盡ク其土地ヲ失ヒ唯カレールノミ殘ルニ至
レリ百年戦争此ニ於テカ終ル

第四章 西班牙王國

前ニモ述ベシ如クピジゴッス人西班牙ニ移リ王國ヲ建テタリシカハ八世
紀ノ始メニ至リ回教徒ノ爲メニ亡ボサル之レヨリ先キ紀元後五百七
十年頃亞刺比亞ノメツカニ於テ一人ノ英傑生ル其ノ名ヲモハメツト
ト云ヒ元來文字ヲモ解セザル一商人ナリシガ自ラ神ノ使ナリト稱シ
一派ノ宗門ヲ開ケリモハメツト死シ之ニ繼グモノ皆武カヲ以テ宗教
ヲ布キ亞細亞西南部ハ勿論亞弗利加北岸ヲモ從ニ更ニ進ンテ歐洲ニ
侵入セント欲シ前後兩度コンスタンチノーブルニ攻入りタレドモ志
ヲ達セズシテ逐還サレタルヲ以テ更ニ方向ヲ轉シテ西班牙ニ入り全
國ヲ從ニ處々ニ學校書籍館等ヲ建テ學術ヲ獎勵セリ中古歐洲ノ學問

ハ彼等ヨリ出タルモノ多シトス後十一世紀ニ至リムール人ノ爲メニ
 亡ボサル之レヨリ國中亂レ統一スル處ナシ千四百九十一年カヌタイ
 ルノフェルディナンドアラゴンノイサベラト婚ヲ結ビ翌年ムール人ヲ
 逐拂ヒ始メテ全國ヲ一統セリ此ノ年又コロンブスヲ助ケ亞米利加ヲ
 發見セシム之レヨリ西班牙ノ勢力増々盛大ヲ致セリ

第五章 日耳曼帝國

紀元後八百四十三年シヤールマンノ帝國分裂シテ三王國トナリ日耳
 曼ハ其後百余年ヲ經テオット一世ノ代ニ至リ四隣ヲ蠶食シ羅馬皇帝ノ
 尊稱ヲ得之レヨリ後日耳曼王ハ皆羅馬皇帝ノ位ヲ兼テ以太利ノ事ニ
 干涉シ法皇ト主權ヲ爭ヘリ然ルニ諸侯ノ權力次第ニ増加シ後ニハ王
 帝ヲ奉セズ國中四分五裂シテ戰爭止ム時ナカリシカバ民力凋弊文明
 少シキ進マズ十五世紀ノ始ニ至リ人々亂ヲ厭ヒ遂ニ或ル強大ナク

諸侯ヲ撰ビテ帝トナシ以テ爭亂ヲ鎮壓シ平和ヲ維持スルノ良策タル
 ナリト云フ然レモアルバート二世ヲ擧ゲ帝位ニ即カシム之レヨリ三
 百余年間帝位ハ埃太利一家ノ專有トナレリ

第六章 東羅馬帝國

願ミテ當時東羅馬帝國ノ狀況ヲ察スルニ未ダ全ク權力ヲ失ハズ殘喘
 餘息ナガラモ十五世紀ノ半頃マデ續ケリ歷代ノ皇帝中尤モ著名ナル
 ハジヤステイニアン帝ニシテ(六世紀)當時ノ大法律家トリポニアン等ノ
 翼賛ヲ得羅馬ノ法律ヲ編纂セリジヤステイニアンノ法典ト云フモノ即チ
 之レナリ此法典ハ歐洲諸國ノ模範ヲ取ルトコロニシテ英吉利ノ如キ
 不文律ノ國ト雖モ尙此法典ノ精神ニヨリ裁判判決ヲナセシモノ多シ
 此他東羅馬帝國ノ事跡ハ記スベキ者ナシ十三世紀ノ頃ヨリ小亞細亞
 ニ於ケル土留其人ノ勢力俄ニ増進シ千四百五十三年遂ニコンスタチ

ル・オムバールヲ陷レ東羅馬ヲ亡ボセリ

第七章 羅馬法王

西帝國ハ亡ナルヤ羅馬ノ大僧正ハ曾テ全世界ヲ支配シタル都府ニ於テ最高最貴ノ人トシテ自ラ世人ノ尊敬ヲ受ケタリ之ヲ「ポープ」ト云フ「ポープ」ハ尊父ト同義ナリ八世紀ニ至リロムバード人以未利ノ北部ヲ占領シ羅馬ヲ侵スコト數々ナリベロン及ビシヤレマン來リテ法王ヲ助ケロムバード人ノ領地ヲ削リ之ヲ法王ニ與フ之レヨリ法王ノ權力漸次ニ増進シ唯ニ宗教上ノミナラズ政治上ニモ干涉スルニ至レリ十世紀ノ半頃ヨリ以太利ハ日耳曼帝ノ領地トナリシガ人民之ニ服セス法王ヲ推シテ皇帝ニ背カンコトヲ謀ル加之ナラズ皇帝ハ政教共ニ主權ヲ有スルモノニシテ其認可ヲ經ザレバ法王トナル能ハズト主張シ之ガ爲メ紛紜當ニ絶エテ千七百十三年グレゴリ一七世法王トナルニ



第八章 十字軍

中古歐洲ノ耶蘇教徒ハ巡禮トシテ多クパレスティンニ赴キ救世主ノ墳墓ニ參詣セリ然ルニ十一世紀ノ中頃土留其人此地方ヲ略セシヨリ禮拜者ヲ苦シメ侮辱ヲ加フルコト甚シカリケレバ其風說早クモ歐洲

及ビ何人タリモ俗人ヨリ僧官ヲ受クルモノハ之ヲ與ヘタルモノト共ニ破門ノ罪ニ處スベシト布告シ尋テ日耳曼帝ヘンリー四世ヲ破門セリヘンリー大ニ怒リ法王ニ向テ戰ヲ試ミントセシモ人民命ヲ奉ゼズ反亂四ニ起リシヲ以テ千七十七年正月親ラ法王ノ門ニ詣リテ罪ヲ謝シ至尊ノ身ヲ以テ單衣跣足外庭ニ立ツコト上三日僅カニ赦免ヲ得タリ之レヨリ法王ノ權力頗ル盛ニシテ葡萄牙アラゴン英國サルデーニア等ノ王皆法王ヲ尊ビテ自ラ其臣ト稱セリ然レドモ久シカラズシテ衰運ニ向ヒ中世ノ終リ頃ニハ殆ド全ク政治上ノ權力ヲ失ヘリ

三傳播シ人々安キ心ハナカリケリ時ニヒーターナル僧アリ親シクセ
 其シテニ赴キテ其實況ヲ目撃シ憤懣ニ堪ヒザリ又ガバ歐洲ニ歸リ
 弊衣襦頭瘦驢ニ跨リテ以太利佛蘭西ヲ遍歴シ到ル處巡拜者ノ慘狀ヲ
 語り一日モ早ク邪教人ヲ征討セザルベカラザルコトヲ説キシカバ人
 心忽チ激昂シ争フテ遠征軍ニ加ハレリ彼等ハ皆肩ニ十字ノ記號ヲ附
 シ其意ヲ表ス是レ十字軍ノ其名ヲ得タル所以ナリ

第一十字軍 千九十六年ヨリ同シク九十九年ニ至ル

(一) 下等人民ノヨリ成リ其元帥ハ一文無シノウォルター (Walter
 the Penniless) ニシテ軍師ハ仙人ノヒーター (Peter the Hermit) ナリ
 シガゼリニサレムニ達スル前ニ破ラレ逃レ歸ル

(二) 武士及ビ諸侯モ之ニ加ハリシテ帝王中ニハ關係セルモノ
 亦少ク大シ種々ノ困難ヲ嘗メ終ニセリニサレムヲ取レリ

第二十字軍 千百四十七年ヨリ四十九年ニ至ル

日耳曼帝及ビ佛蘭西王モ之ニ加ハレリ屢破ラレ一モ爲ス處ナ

第三十字軍 千百八十九年ヨリ九十二年ニ至ル

十字軍中最モ有名ナルモノニシテ土留其ノ軍ニハサラディン十

字軍ニハ英王リチャード佛王フィリップ曼帝フレデリック、ハーバロ、サ

ノ如キ英雄アリタリ然レモ英王佛王相好カラズ爲メニ此軍モ

著シキ功績ナカリキ

此後尙屢々十字軍ヲ起シ千二百七十年マデ前後八回ノ多キニ及ビタ
 レモ一々記スルニ足ラズ唯セリニサレムハ再ヒ土留其人ノ手ニ落チタ
 ル儘回復スル能ハザリキ此ノ如ク十字軍ハ殆ド二百年間ニ亘リ人命
 財産ヲ費セルコト實ニ莫大ナリシモ間接ニハ尙種々ノ好結果ヲ生ゼ

リ今之ヲ左ニ略記スヘシ

第一、歐洲諸國ノ人民一般協合シテ戰ヒタルヲ以テ互ニ相知リ相

親シミ自ラ同感ノ情ヲ強クシタルコト

第二、東洋ノ風土物産等ヲ見智識ヲ増シ商業ヲ盛ニセシコト且ツ

フロレンス、ゼノア等ノ府民運漕貿易ニ從事シ大ニ殷富ヲ致シタルコト

第三、諸侯ハ人民ニ土地ヲ賣リ或ハ自由ヲ與ヘ以テ軍費ヲ調ヘタ

リ故ニ十字軍ノ終ルヤ諸侯ノ權力衰ヘ封建制度廢頽ニ歸シタルヲ

第四、此時マデハ異教人トシ云ヘハ蛇蝎ノ如ク思ヒタルモ實際之

ニ接スルニ及ビ其性質風俗等感賞スベキモノ少ナカラザルヲ見

爲ニ思想ヲ廣クシ胸襟ヲ恢ニシタルコト

第五、義騎制度ノ發達ヲ致シタルコト

第九章 封建制度

テニトシテ人ガ歐洲ヲ侵略スルヤ其酋長ハ皆得タルトコロノ土地ヲ以テ已レト部下トニ分配セリ此土地ヲ名ケテ「アロディアル」ト云フ之ヲ受ケタルモノハ充分其所有權ヲ持シ酋長ト雖モ縱ニ之ヲ奪フ能ハズ又別ニ租稅ヲ出シ或ハ兵役ニ服スルノ義務ヲシ固ヨリ國家危急ノ際ニハ兵士トナルモ是レ決シテ土地所有者タルノ故ヲ以テニ非ズ唯ダ一國民若クハ同種族ノ人民トシテ兵ニ出ヅルナリ

サテ又酋長及ビ部下ノモノハ斯クシテ得タル所ノ土地ヲ寵臣若クハ征服サレタル土民ニ與ヘ其報酬トシテ彼等ヲ臣隸トシ租稅ヲ納メ戰時ニハ又兵士トナラシム此ノ如キ土地ヲ「フィーフ」ト云フ「フィーフ」ハ臣下ノ私有ニ非ズ故ニ之ヲ受ケタルモノモ賣買讓與ノ權ナク又主人ノ意ニヨリテ何時沒收サル、モ亦如何トモスル能ハザルナリ之ヲ封建制

度ノ始メトス

後年ヲ經ルニ從ヒ小諸侯ハ皆他ノ侵略ヲ恐レテ大諸侯ノ臣トナリ、
一フトシテ其土地ヲ保ツノ安全ナルヲ計リ大諸侯モ亦同様ニシテ遂
ニ一君ノ下ニ隸屬スルニ至レリ十一世紀ノ頃ニハ封建制度充分ニ發
達シ諸侯ハ皆堅固ナル城郭ヲ構ニ擅ニ人民ヲ壓制シ其狀恰モ獨立ノ
君主ノ如シ故ニ封建制度ハ武備ヲ盛ニシ外敵ヲ防グニハ多少ノ効力
アリシモ其弊害ノ極マル處大ニ人民ノ自由ヲ害シ且ツ群雄處々ニ割
據シテ干才ヲ交フルヲ以テ一國ノ結合ト平和トヲ妨グタルコト亦決
シテ少ナカラズ後次第ニ衰ヘ十五世紀ノ終リニ至リテハ殆ド全ク滅
絶セリ今其原因ヲ尋ヌルニ左ノ如クナルヲ見ル

- 第一、王權次第ニ増加セシコト、
- 第二、自治都邑ノ勢力ヲ得テ貴族ノ專横ヲ抑制セルヲ、

- 第三、僧侶ノ帝王ニ與シテ諸侯ニ反對セシコト、
- 第四、十字軍ノ爲メニ諸侯產ヲ破リカヲ墜セシコト、
- 第五、火藥ノ發明以來戰爭ノ方法一變セシコト、
- 第六、商工業ノ漸ク盛大ニ赴キシコト、
- 第七、學問振起シテ武事衰ヘタルコト、

以上列記シタル中ニハ一方ヨリ之ヲ見ル時ハ封建制度衰頹ノ結果ト
シテ考フベキモノナキニ非ズ蓋シ社會ノ顯象タル互ニ原因トナリ結
果トナリ以テ天下ノ大勢ヲ成スモノナレハ封建制度衰頹ノ結果カ却
ツテ又原因トナリテ愈封建制ヲ仆セルモノ少ナカラザルナリ

第十章 義騎制度

義騎制度ハ元來名譽ヲ貴ヒ婦人ヲ愛敬スル處ノテ、ト人ノ特性ニ
基キ起リタルモノナリ封建ノ世天下大ニ亂レ老若婦女等特ニ不幸ヲ

受クルヲ見テ義俠ノ士之ヲ憐ミ強ヲ摧キ弱ヲ助クルヲ以テ務トシ馬
上ニテ諸方ヲ遊歴セリ十字軍ノ時ニハ最モ盛ニシテ數個ノ團體ヲナ
シ彼等ヲ「ナイト」ト稱セリ當時ノ王公ハ其臣下ノ子弟ノ爲メニ校舎ヲ
城中ニ設ケ武藝ヲ講習セシム臣下ノ子弟七歳ヨリ十四歳マデハ貴婦
人ニ侍シ禮節ヲ學ブ之ヲ「ページ」ト稱ス十四歳ニ至レバ「スクワイア」ト
稱シテ男子ニ屬シ主人戰場ニ臨ムトキハ之ニ隨從ス此クテ二十一歳
ニ至リ始メテ「ナイト」トナル此位ヲ得ルモノハ皆神ヲ敬シ婦人ヲ尊ビ
正義ヲ守リテ偽リヲ語ラザルコトヲ盟ヘリ後封建制度衰ヘ殊ニ火藥ノ
發明以來戰爭ノ風一變シ猛將勇卒モ其力ヲ用ユル所ナキニ至リ此制
度モ亦全ク廢絶セリ「ナイト」中ニハ勇ヲ恃ミ社會ヲ害セシモノ少ナカ
ラザリシモ一般ヨリ論ズル時ハ此ノ如キ亂世ニハ其益亦多カリシナ
ラシ

第十一章 中世文明ノ有様

闇世ニ於テハ野蠻人跋扈シ羅馬ノ文明モ殆ド跡ヲ滅セリ此際ニ於テ
僧侶ノミハ多少ノ學識ヲ具ヘ平和ノ先導者トシテ常ニ諸侯ノ專横ヲ
抑エ人民ノ自由ヲ保護セリ實ニ彼等ハ古代ノ文明ト近世ノ文明トヲ
連接セル一條ノ橋梁ニシテ其下ニハ奔湍激流アルニモ關セズ能ク古
代ノ文明ヲ後世ニ傳ヘタリ十一世紀ニ至リテハ處々ニ都邑起リ商業
工業ヲ盛ニシ且ツ同盟シテ諸侯ノ侵掠ヲ防グリ其中尤モ有名ナルハ
ハンス同盟及ピロンバード同盟ニシテ各七八十ヶノ都邑ヨリ成リシ
ト云フ

當時ノ學問ハ唯形而上ノコノミニシテ荒誕無稽ノ說ナリシモ十三世
紀ニ至リロージャー、ベーコン、アルバートゥス、マグヌスノ如キ學者出テ之
ヨリ理化學漸ク起レリ且ツ先ニ述ベタル如ク回教人西班牙ニ來リテ

學校ヲ開キ學問ヲ獎勵シ歐洲文明ニ少ナカラザル影響ヲ與ヘタリ十
 四世紀頃ニ及ビテハ製紙法ヲ發明シ尋テ印刷術ノ發明アリ之レヨリ
 學問ノ進歩頗ル速カナリシ蓋シ往昔歐洲ニテ書物ノ材料ニ用井タル
 ハ埃及ニ生ズル「パピルス」葦蘆ノ一種ニシテナイル河畔ニ多シ英語ノ
 「ペーパー」ハ之レヨリ轉訛セルナリノ葉ナリシガ紀元後八世紀頃回教
 人埃及ヲ征服シテ「パピルス」ノ輸出ヲ禁シタルヨリ已ムヲ得ズ鹿皮等
 ヲ用井タリ此ヲ以テ書籍ノ價極メテ貴ク普通人民ノ資力ニテハ到底
 之ヲ購求スル能ハザリシガ此時ニ至リテ始メテ敝布ヨリ紙ヲ製スル
 ヲ發明シ尋テ又印刷術モ開ケタレバ書籍ノ價隨ツテ減シ學問ノ普
 及ヲ助ケタルヲ少ナカラズ要スルニ十一世紀後ニハ歐洲ノ文化再興
 シ來リ近世文明ノ基ヲ作りタルナリ

印刷術ニ關シテハ二三ノ府民各發明者ノ名ヲ争ヘリ然レモ其争マ

ル事實ニアラズシテ寧ロ字義ニアリ故ニ印刷術ナル字義ヲ確定セ
 シニハ其争モ亦自ラ決スベシ蓋シ木版ノ發明者ハ「ハーレム」府ノ「コ
 スター」ニシタメシツツ府ノ「ギユ」ツテンベルグハ活字ヲ工夫シ尋テセ
 ツフエー、フアウストノ二人ハ木版ニカユルニ金屬製ノ活字ヲ以テ
 セリ

第三篇 近世史

第一章 十六世紀

第一節 海上發見

前節ニ略述シタル如ク中古ノ終ル前ヨリ學問商業共ニ進歩シ來リ人
 民ノ思想社會ノ面目共ニ舊ヲ捨テ新ヲ取り世事漸ク活潑ナルニ至リ
 先ヅ其結果トシテ顯ハレタルモノハ海上發見ト宗教改革ナリ
 十五世紀ノ始ニ於テ歐洲人ハ漸ク羅針盤ノ用ヲ知り航海ノ術大ニ進
 歩セリ殊ニ葡萄牙ノ航海者ハ皇子ヘンリー及ビジョン二世ノ保護ヲ
 受ケ亞弗利加ノ西岸ニ沿フテ漸次ニ南下シ終ニ千四百八十八年デ
 アズナルモノ亞弗利加ノ南端ヲ回航セリケイプホープランド、ホープジョン王此ニ於テ海路印度
 ニ通航シ得ベキ望アルヲ見此南端ヲ名ケテ好望海角ト云フ好望ノ名

果シテ空ニカラズ後十年ヲ經バスコダガマナルモノ印度洋ヲ横切リテ印度ニ到着セリ之レヨリ先キゼノアノ人コロンプス以爲ラク地球ハ元ト球狀ナルベケレバ若シ西方ニ向ヒ航海センニハ必ズ印度ニ達スベシト此ニ於テ歐洲諸國ノ王公ヲ説キ其助ケヲ求メタレト一人トシテ之ヲ信ズルモノナク空ニ狂人視セラレタルガ幸ニシテ終ニ西班牙ノ女王イサベラノ扶ヲ得千四百九十二年西印度ニ航シ亞米利加ヲ發見セリ此ノ如クシテ海上貿易ハ是迄殆ド地中海中ニ限ラレタルモ此時ヨリ大西洋印度洋等ニ廣ガルニ至レリ且ツ其他ノ歐洲諸國モ爭フテ利益ヲ分タント欲シ英佛蘭等皆船ヲ米洲或ハ印度南洋等ニ送り土地ヲ拓キ殖民ヲナシ或ハ單ニ貿易ニ從事セリ之レヨリ歐洲ノ貿易事業全ク一變シ彼等ガ曾テ夢ニダモ想像シ能ハザリシ地方新ニ世界ノ歴史ニ上ルニ至レリ(宗教改革ノ事ハ第四節ニ詳カナリ)

第二節 中央集權

十字軍及ビ火藥ノ發明等ニヨリ封建割據ノ弊止ミ中央集權ノ害之ニ尋テ起レリ余輩ハ中古ノ終ニ於テ封建制度既ニ倒レ專制王國續々トシテ起ルヲ見タリ即チ佛蘭西ハ百年戰爭終リテ國勢俄ニ増進シ英國ニテハ千四百五十五年ヨリヨーク家トランカスター家ト王位ヲ爭ヒ(薔薇ノ戰)六年間干戈絶エザリシヲ以テ貴族ノ過半ハ之ニ死シ尋テチードル家ノヘンリー七世位ニ上ルニ及ビ王權益盛ナリシ又西班牙ニテハフアディナンド及ビイサベラ全國ヲ一統シ且ツ埃太利家ト婚ヲ結ビ其孫チャールス五世日耳曼皇常ノ位ニ即クニ及ビ其領スル所ハ唯ニ西班牙日耳曼ノミニ止マラズネーブルス、シ、ハ、リ、サ、ル、デ、ニ、ア、チ、ザ、イ、ラ、ン、ド、及ビ亞米利加ノ廣大ナル領地ヲモ并有セリ尙王權伸張ノ理由ヲ詳記スレバ下ノ如シ

第一、諸侯勢力ヲ失ヒ王權ヲ制限スル能ハザリシヲ

第二、僧侶ハ自由ノ保護者トシテ王公ノ壓制ヲ抑ユシモ此頃ヨリ

宗教改革ノ氣焰漸ク熾ニシテ人民舊教ニ反對スルノ傾ヲ生ゼシ

カバ僧侶ハ却ツテ國王トカヲ協セ人民ヲ壓制スルニ至リタルヲ

第三、中等社會ハ未ダ勢力ヲ得ズ且ツ人心亂ニ厭キ寧自由ヲ棄ツ

ルモ平和ヲ買ハント欲シ王權ノ增長ニ意ヲ注ガザリシヲ

第三節 國力平均ノ争

斯ノ如ク封建割據ノ風止ミ中央集權盛ナルニ及ビ其極列國相争フニ

至ルハ勢ヒ止ムベカラザルヲナリチャールス五世帝位ニ上ルニ及ビ

列國ノ權力平均ヲ失ヒ西班牙獨リ強盛ナリシヲ以テ佛王フランシス

一世之ヲ争ヒ英王ヘンリー八世亦之ニ干涉シ戦争絶ヘズフランシス

ハ屢破ラレ或ハ虜トナリシモ更ニ屈セズ此際宗教改革起リチャール

スハ内諸侯ノ反亂ト外佛國ノ攻撃トニ勝ユル能ハズ千五百五十六年

位ヲ辭シ寺院ニ退隱セリ帝ハ性沈黙ニシテ言笑スルヲ少ナクヘンリー

一世其他當時ノ帝王ノ如ク不徳ノ君ニアラザリシモ時勢ヲ洞察ス

ルノ明ナク飽マテ舊制度ヲ守リ新思想ヲ壓伏セントシタルハ抑モ亦

過テリト云フベシ帝位ヲ辭スルニ及ビ西班牙日耳曼ハ再ビ分レテ二

國トナレリ

第四節 宗教改革

既ニ述ベシ如ク羅馬法王ハ上帝ノ代理者トシテ無上ノ權力ヲ有シ其

下ニ在ル處ノ僧侶モ後ニハ敗徳無智ノ者多ク寺領ノ住民ヨリハ賦稅

ヲ苛征シ逸樂ノ資ニ供セリ此ノ如クナレヲ以テ十二三世紀ノ頃ヨリ

英佛諸國ニ於テ法王僧侶ノ處業ヲ非トシ且ツ其教理儀式等ノ聖書ニ

戻レルヲヲ説キタルモノ少ナカラズ然レモ當時法王ノ權力強大ナリ

シヲ以テ容易ク之ヲ撲滅シ得タリシガ十六世紀ノ始メニ至リ至々々々
 ル事ヨリシテ意外ニモ宗教改革テフ一大争亂ヲ惹起セリ此時レオ十
 世法王トナリ財用ニ窮セシヲ以テ何人スリモ金ヲ納ムルモノハ現世
 ノ罪惡ヲ贖ヒ得ベシト唱ヘ日耳曼地方ニ於テ盛ニ赦罪狀ヲ賣出セリ
 ウイツテンベルグ大學校神學教授ルーサーナルモノ主トシテ之ニ反
 對シ千五百十七年九十五箇條ノ理由ヲ舉ゲ法王ノ處置道理ト經典ト
 ニ戻レルコトヲ公言セリ此ニ於テ法王ハルーサーヲ破門セシト雖モル
 ーサー少シモ屈セズ公衆ノ面前ニ於テ破門狀ヲ焚燒セリ尋テ千五百
 二十一年チヤールス五世ウーラムスニ於テ會議ヲ開キルーサーヲ召喚
 シテ其說ヲ取消サシムルーサー之ヲ肯セズ侃然トシテ曰ク苟モ良心
 ノ命ニ從フヨリ安全ニシテ且ツ得策ナルハナシ余ハ斷乎トシテ余ガ
 說ヲ持ス神明ソレ余ヲ助ケント之レヨリ宗教改革ノ熱度頓ニ増加シ

サキソニ侯ヲ始メ他ノ諸侯モ新教ニ改宗スルモノ多シ蓋シ彼等ハ
 ルーサーノ說ヲ是トシ之ニ與セルヨリハ寧ロ法王ノ專横ヲ憤リ且ツ
 以太利ニ於テ法王ノ傲奢ヲ助クル爲メ自國ノ財貨ヲ竭スヲ見テ不平
 ニ勝エザリシナリ之レヨリ争亂絶エズ其結果ハ延イテ三十年戦争ト
 ナリウエストフリアノ條約トナリ漸ク其局ヲ結ブニ至レリ此際新教徒
 ハ次第ニ増加シ歐洲中英獨瑞西スカンディナビア等ノ如キテノ
 人種ノ國ニ於テハ新教勢ヲ占メ佛以西等ラテン人種ノ國ニ於テハ舊
 教尙盛ナリシ

第五節 ヘンリー八世及ビ女王エリサベス

ヘンリー八世ハヘンリー七世ノ子ニシテ頗ル傲慢ナル暴君ナリシ
 皇后ヲ變ニ爲ニ法王ト争常ニ絶エズ新舊兩教徒共ニ虐待ニ苦シメリ
 然レモ租稅ヲ輕クシ且ツ政治少シモ滯滞ナカリシヲ以テ一般ノ人民

1782

ハ増富榮ニ赴ケリヘンリー死シ十一年ヲ經テ皇女エリサベス位ニ即
 キ新教ヲ以テ國教トシ自ラ宗教上ノ主權ヲ握リ舊教徒ヲ壓服セリ此
 ニ於テ他ノ舊教諸國エリサベスヲ廢ソトヲ企テ千五百八十八年西班
 牙王フリッポ百餘艘ノ軍艦ヲ送り英國ニ向ハシム(此艦隊ヲ名ケテイン
 ビンシプル、アルマダト云ヘリ)其狀恰モ彼ノダライアスガ艦撞連續希
 臘ニ攻入メリタルガ如ク一撃ノ下ニ英國ヲ屈服セシメント思ヒタル
 ニ何ゾ圖ラン却ツテ其破ル所トナリ艦隊半ハ毀タレ半ハ風波ノ爲ニ
 覆ヘサレ逃レ歸リシモノハ僅ニ其三分ノ一ニ過ギズ此ニ於テ歐洲大
 陸ノ新教徒モ大ニ勢力ヲ得西班牙ノ權勢頓ニ衰ヘタリ之ニ反シテ英
 國ハ此時ヨリ威ヲ海上ニ振ヒ到ル處ニ殖民地ヲ設ケ通商益盛ナリ又
 國內ニ於テハ工業製造隆盛ヲ致シタルノミナラス文學大ニ起リシエ
 ークスピアノ如キ古今獨歩ノ著作家出タリ實ニエリサベスノ御宇ハ

1782, 1789

波斯戰爭後ニ於ケルベリクルノ時代ト一般文運武力共隆盛ノ極ニ達
 シ英人ガ常ニ誇稱シテ止マザル處ナリ女王ハ其性質欠點ナキ非ザレ
 亦其目的トスル處ハ英國ノ名譽ヲ揚ゲ富強ヲ致スニ在リシナリ女
 皇千六百一年ニ死シチユードル王統此ニ至リテ絶ユ

第六節 佛國宗教爭亂

佛蘭西ニ於テハジョン、カルヴァインナルモノ宗教改革ヲ主張シルイサー
 ヨリハ一層新奇ナル說ヲ唱ヘタリ之レヨリ内亂常ニ絶エズチヤール
 ス九世位ニ上リ暗弱ナリシヲ以テ實權ハ全ク太后カザリン及ビ弟ヘ
 シリノ手ニ落チタリ王之ヲ不滿トシ竊ニ新教ノ諸侯ニ謀リ彼等ヲ
 退ケ自ラ政權ヲ握ラント欲ス太后之ヲ聞キ其徒黨ト謀リ千五百七十
 二年八月二十三日ノ夜ヲ以テ不意ニ巴黎ニ在ル新教徒ノ家ヲ襲ヒ一
 萬餘人ヲ殺セリ之ヲセント、パソ、ロミニューノ虐殺ト稱ス此虐殺ハ尋

テ全國ニ廣ガリ新教徒ノ之ニ死スルモノ四萬餘人ノ多キニ及ベリ之レヨリ國中益亂レ戰爭絶エザルヲ十八年ブルボン家ノヘンリー四世位ニ即クニ及ビ宗教自由ヲ許シ内亂始メテ一定セリ王賢明ニシテ租稅ヲ輕クシ農工商ノ衰頹ヲ挽回セリ

第七節 和蘭共和國ノ勃興

子イザラントハ久シクチャールス五世ノ支配ノ下ニ在リシガ千五百五十六年チャールス位ヲ辭スルニ及ビ西班牙王フィリップ二世ノ支配ニ歸シタリ當時此國民ハ航海商業ヲ勉メ製造ニ巧ニシテ富榮他ニ冠タリ且ツ彼等ハ自由ヲ愛シ熱心ナル新教徒ナリシヲ以テフィリップ二世之ヲ憎ミ宗教裁判所ヲ設ケ新教徒ヲ嚴刑ニ處セリ此ニ於テ忽チ兩國間ノ戰爭トナリオレンジ侯ウイルリヤム父子相繼テ和蘭人ヲ率ヒ敵ノ大軍ニ抗シ百敗撓マズフィリップ遂ニ力屈メテ千六百九年休戰ノ約ヲ

結ベリ之レヨリ先キ和蘭人ハ共和政府ヲ立テウイルリヤム父子相繼テ大頭領ニ撰バレタリ此戰爭中人民ハ尙商業ヲ怠ラズ一層富ヲ増シ其海軍ノ如キハ當時歐洲中之ガ右ニ出ルモノナカリシ

第八節 十六世紀ノ文明

中古ノ終リ頃ヨリシテ文明進歩ノ兆既ニ顯ハレタルガ十六世紀ニ至リテ其進歩益著シク或ハ航海通商ノ隆盛トナリ或ハ學問ノ再興新思想ノ發達トナリ社會百般ノ事物皆其面目ヲ新ニセリ今當世紀ノ有名ナル人物ヲ舉グレバ美術家中ニハアンゼロー、ラファエル、デューレル等アリ著術家中ニハセークスピア、スペンサー、モンテーン等アリ理學者中ニハコパーニカス、ガリレオ等ノ大家アリタリ

第二章 十七世紀

第一節 ステュワート王家

エリサベス死シゼームス一世位ニ上ル之ヨリ六代ノ間王位ハステュー
 ート家ノ手ニアリ當時英國ニテハ商工業盛ナルニ隨ヒ中等社會ノ權
 力次第ニ増シ自由ヲ尊重スルノ念漸ク深カリシニモ關セズゼームス
 一世ハ飽マデ王權ヲ張り專制ヲ行ハントシタルヲ以テ人民ノ不平止
 ム時ナク其子チャールス一世位ヲ繼グニ至リ神權説ヲ信シ國會ノ承
 諾ヲ得ズシテ租稅ヲ課シ縱マ、ニ臣民ヲ禁錮スル等壓制ノ處置頗ル
 多カリシカバ人民大ニ怒リ千六百廿八年王ニ迫リテ其請願ヲ容レ新
 憲法數ヶ條ヲ立テ之ヲ履行スルヲ約セシム所謂權利ノ請願之レナ
 リ王已ムヲ得ズシテ一時之ニ服セシト雖モ後屢之ヲ破リ國會ニ於テ
 ハ又過激黨勢力ヲ占メ飽マデ王ニ抵抗セシヲ以テ王室ト人民トノ不
 和ハ日ヲ追フテ増進シ來リ千六百四十二年ニハ遂ニ分裂シテ大亂ヲ
 起スニ至レリ此時貴族僧侶ハ大抵王ノ麾下ニ集マリ農夫商人等ハ國

1040

會黨ニ與ミシ干戈ヲ動かスヲ六年ノ久シキニ及ベリ
 國會黨中第一ノ人物ハオリブート、クロンウェルニシテ熱心ナル清教徒
 ノ一人ナリ性質剛毅ニシテ物ニ屈スルコトナク且ツ武ニ長シ向フ所敵
 ナシナスピーノ戰ニテ王黨全ク敗レチャールスハ逃レテ蘇國ニ赴キ
 シモ直ニ國會黨ニ引渡サル此ニ於テクロンウェルハ委員ヲ撰ビ王ヲ裁
 判シ千六百四十九年王ヲ死刑ニ處セリ之レヨリ十一年間ハクロンウェ
 ル政權ヲ握リ專制ヲ極メシト雖モ内治外交共ニ活潑ニシテ英國ノ威
 名ハ歐洲ニ轟ケリクロンウェル死スルニ及ビ其子リチャード、クロンウェ
 ル位ヲ繼ギシモ不肖ニシテ天下ヲ統御スル能ハズ幾モナクノ職ヲ辭
 シ國內再ビ亂ル此ニ於テ千六百六十年人民遂ニチャールスノ子逃レ
 テ佛國ニアルモノヲ迎ヘ王位ニ即カシム之ヲチャールス二世ト稱ス
 チヤールス二世ハ他ノステューート王ノ如ク人民ヲ壓制スルコトナカ

リシモ懶惰淫逸ノ君ナリシヲ以テ大ニ内外ノ嘲笑ヲ招ケリ且ツ之レヨリ先キクロンウェルノ英國ヲ支配スルヤ專ラ清教主義ニヨリテ儉素質朴ヲ旨トシ演劇其他ノ娛ヲ禁シ彫刻及ビ繪畫ハ偶像教ニ伴フモノナリトテ之ヲ排斥セリ此ノ如クナルヲ以テチャールス二世ノ代ニ至リテハ其反動トシテ奢侈淫靡ノ風盛ニ行ハレ道德腐敗シ投票ノ買賣モ亦此時ニ始マレリゼームス二世繼テ位ニ即キ舊教ヲ以テ國教トナサンコヲ務メタルヨリ人民王ニ反シ千六百八十八年ゼームスリ女婚オレンジ侯ウイルリヤム三世ヲ招キ王位ニ即カシムゼームス逃レテ佛國ニ入ル此ニ於テ新ニ憲法ヲ立テ上下ノ權限ヲ定メ英國ハ此時ヨリ純然タル立憲王國トナレリ此憲章ヲ名ケテ權利狀ト云フ

第二節 三十年戰爭

三十年戰爭ハ十七世紀歐洲大陸政治上ノ最大事件ニシテ千六百十八

1518
90

年ヨリ始マリ同シク四十八年ニ至リテ其局ヲ結ベリ之レヨリ先キチャールス五世ノ位ヲ辭スルニ當リテヤ日耳曼國中ノ諸侯ハ殆ンド獨立ノ有様トナリ新舊兩教徒ノ爭絶ユルコナク爾後四五代ノ皇帝ハ皆禍亂ヲ定メ統一ノ功ヲ奏スル能ハザリシ然ルニフア「テイナンド二世帝位ニ上ルニ及ビ名將ワールンスタインヲ新教ノ諸侯ヲ討タシム諸侯敵スル能ハズ援ヲ瑞典王ガスタヴスアドルフスニ乞フガスタヴスハ智勇兼備ノ良將ニシテ熱心ナル新教徒ナリシヲ以テ千六百三十年兵ヲ率井テ日耳曼ニ入り英佛ノ聲援ヲ得テ連戰敵ヲ破リ新教徒ノ失ヒタル土地ヲ恢復セリガスタヴス幾モナクシテ陣没セシト雖モオキセンステイールン及ビサキセウアイマー侯等ノ諸雄之ニ繼テ軍氣ヲ鼓舞シ尋テ佛國ハ直接ニ此事ニ關涉シ名將勇卒ヲ送リテ新教徒ヲ助ケシメシカバ皇帝モ遂ニ敵ニ難キヲ見千六百四十八年和ヲ結ベ



リ之ヲウエストフリアノ條約ト云フ此條約ハ歴史上頗ル重要ナルモ
 ニシテ之レニ依ツテ瑞西及ヒ和蘭ハ獨立ヲ公認セラレ佛蘭西瑞典ノ
 兩國ハ領地ヲ廣メ且ツ帝國ノ政治ニ干涉スルノ權ヲ得タリ而シテ此
 戰爭ノ中心タリシ日耳曼ニ於テハ新教徒ハ宗教上ノ自由ヲ得タルモ
 國內ノ分裂ハ愈甚シク且ツ全國兵馬ノ蹂躪スル所トナリ民力歇キ文
 明衰へ爾後殆ント二百年間此損害ヲ償フ能ハザリシ

第三節 ルイ十四世ノ治世

千六百十年ヘンリク四世死シルイ十三世位ニ即ク太后政ヲ攝シ政治
 大ニ亂ル此ニ於テリセリユト入りテ相トナリ紀綱ヲ正シ貴族ノ權ヲ
 削リ且ツ新教徒ノ亂ヲ鎮壓セリ又三十年戰爭ニ干涉シテ埃太利王家
 ヲ屈服セシメ佛國ノ威名ヲ四方ニ輝カセリセリユトハ權謀ニ富ミ
 英敏果斷ノ大政治家ニシテ國政ヲ左右スルコト二十年ノ久シキニ及ベ

シ千六百四十三年ルイ十三世死シ其子位ニ即ク之ヲルイ十四世トス
 此時ニハ三十年戰爭尙未ダ終ラズ佛ノ名將コンデ屢埃太利及ヒ西班
 牙ノ兵ヲ破ルウエストフリアノ條約ニテ佛國ハ日耳曼ノ諸洲ヲ得タリ
 ルイ尙以テ足レリトセズ益國威ヲ揚ゲント欲シ和蘭西班牙等ヲ伐ツ
 歐洲列國皆同盟シテ王ニ敵シ數十年間戰爭殆ト止ム時ナシ其結果
 ル充分王ノ意ヲ滿スニ足ラザリシモ佛國ハ歐洲中最強國トシテ其隆
 盛ノ極ニ達シ學問進歩シ製造貿易等モ頗ル盛ナリシ且ツ其風俗ハ此
 時ヨリ歐洲諸國ノ模範トナリ其國語ハ一般上流社會ノ通語トナルニ
 至レリ故ニ此時代ヲ稱シテ佛蘭西ノ黄金時代ト云フ然レモ外部ノ隆
 盛ヲ極メタルト同時ニ内部ハ既ニ腐敗シ上下奢侈ニ耽リテ道德全ク
 敗レ人民ハ專制政治ノ下ニ屈シナガラ唯外觀ノ美ニ迷ハサレ默々メ
 リシモ之ヲ悔ユルノ日蓋シ遠キニアラザリシナリ千七百十四年王死

シャルイ十五世位ヲ繼グ

第四節 十七世紀文明ノ有様

十七世紀ハ無形的ノ文明即チ學問ノ進歩頗ル著シク哲學者ニハベ
コン、スピノザ、ライブニツ、理學者ニハケプレル、ニュートン、トリセリ
著述家ニハラフオンテーン、パスカル、モーリエー、ミルトン等ノ名家輩
出シタルヲ以テ其一端ヲ窺フニ足ルベシ然レモ一般ノ人民ハ智識ニ
乏シク生活ノ程度低ク新聞紙ノ如キモ未ダ起ラズ且ツ道路險惡ニシ
テ頗ル交通ニ不便ナリシモ理學ノ進歩ト共ニ有形ノ文明モ漸次ニ進
歩シ萬事改良ノ緒ニ就ケリ

第三章 十八世紀

第一節 ハンノーバー王家

千七百二年ウヰルリヤム三世死シ義妹アン位ニ即キシモ十二年ニ

テ死システユウイト王統絶ニ此ニ於テゼームス二世ノ曾孫ハンノバ
侯ジョージヲ迎ヘ王位ヲ襲ガシメ之ヲジョージ一世ト稱ス王千七百
二十七年ニ死シ其子ジョージ二世位ヲ嗣グ王ノ末世ニ現ハレタル大
政治家ハウヰルリヤム、ピットニシテ其才略ニヨリ英國ハ十八世紀ノ
半頃ニ於テ歐洲第一強國ノ位置ヲ得メリ千七百六十年ジョージ三世
位ヲ繼グ幾モナクシテ米國殖民地獨立ヲ企テ遂ニ分離セシト雖モク
ライヴ、ベーステングス二氏ノ力ニ依リ印度ヲ從ヘ以テ此失ヲ償フヲ
得タリ米國獨立後英國ニ在リテ著名ナル政事家ハフックス及ビ少ビ
トノ二人トス就中ピットハ行年廿四歳ノ弱冠ヲ以テ大英國ノ宰相トナ
リ千七百八十三年ヨリ千八百一年ニ至ルマテ十有九年ノ間英國ノ政
治ヲ左右セリ少ピットハ向キノピットノ第二子ナリ

第一節 普魯西ノ勃興

千七百一年ブランダンプルグ侯フレデリック始メテ普魯西王ノ位ニ
 即ク其子フレデリック、ウヰルリヤム大ニ節險ヲ勤メテ貯蓄ヲナシ又
 兵士ヲ訓練スルヲニカヲ盡セリ大王フレデリック二世襲テ位ニ上ル
 ニ及ビ速ニ此財貨ト兵士トヲ利用シ以テ普國ヲ強盛ニスルノ機會ヲ
 見出シタリ千七百四十一年埃太利ト戰ヒシレシアヲ得之ヲ第一シレ
 シア戰爭ト云フ千七百四十四年再ビ埃國ト戰端ヲ開ク英佛共ニ埃國
 ヲ助ク之ヲ第二シレシア戰爭ト云ヒ翌年ニ至リテ終ル千七百五十六
 年ニ至リ埃國ハ佛蘭士魯西亞波蘭瑞典及ビサキソニト共ニ普國ヲ
 分割センコヲ謀ル之レヨリ七年間戰爭斷ニス普王ハ僅ニ英國ノ援ヲ
 得タルノミ然レモ非凡ノ智勇ヲ以テ能ク敵ニ當リ遂ニ名譽アル條約
 ヲ結ビ戰ヲ終レリ之ヲ七年戰爭ト稱シ普國ハ此時ヨリ歐洲五大強國
 ノ一トシテ其名ヲ轟カスニ至レリ戰爭ノ終ルヤ王ハ窮民ヲ救ヒ

者ノ遺族ヲ扶ケ農工商業ノ恢復ヲ圖ル等テ格テ、專ラ民治ニ心
 ヲ用非シヲ以テ普國ハ日一日ニ繁盛ニ赴ケリ王武勇ニシテ物ニ屈撓
 セズ且ツ計略ニ富ミ權謀ニ長ゼリ故ニ其爲ス所屢正義ニ戻ルト雖モ
 其目的トスル處ハ全ク普國ヲ強盛ニスルニ在リ而シテ英邁ノ資實ニ
 能ク此目的ヲ達スルヲ得タリ

第三節 魯西亞ノ勃興 附チヤールス十二世紀

魯西亞ノ建國ハ遠ク九世紀ニアリ然レモ其後常ニ蒙古人種ノ侵掠ス
 ル所トナリ殊ニ十三世紀ニハ韃靼ノ酋長ジンギス汗ノタメニ征服セ
 ラレ爾後二百年間其羈勒ノ下ニ苦シメリ十六世紀ノ半ニ至リイヴァン
 ヴァシロヴヰツナルモノ韃靼人ヲ破リテ獨立シザールトナル之レヨリ
 百餘年ヲ經ビ一ター大帝位ニ即クニ及ビ魯國ハ忽チ一躍シテ歐洲強
 國ノ列ニ上レリ帝ハ始メ放逸ナル少年ナリシモ頗ル才略氣力ニ富ミ

1725

其目的トスル處ハ社會ヲ改良スルト海港ヲ得テ海軍ヲ盛ニスルトニ在リ蓋當時魯國ノ領地ハ蒙古科ノ周圍ナル荒野ニ止マリテ少シモ海洋ニ接セズ且ツ其住民モ久シク韃靼人ノ配下ニアリテ其風習ニ化シ矇昧野鄙純然タル野蠻國ナリシナリ此ヲ以テピーター帝ハ奮然志ヲ決シ千六百九十六年國政ヲ貴族ノ一人ニ托シテ自ラ和蘭及ビ英國ニ遊ビ造船術航海術等凡テ海軍ニ關スル必要ノ事ヲ學ビ五年ヲ經テ國ニ歸リ風俗制度ヲ一新セリ之レヨリ先キ土留其人ヨリアソツフヲ奪ヒ黑海ニ出口ヲ得タリシガ後又瑞典王チャールス十二世ト戰フテバルテイツク海ノ東岸ヲ得都ヲ蒙士科ヨリ聖彼得堡ニ遷セリ且ツ道路溝渠ヲ作り製造貿易ヲ盛ニシ印刷術ヲ採用セシ等其事業一ニシテ足ラズ千七百二十五年病ヲ以テ卒ス之レヨリ凡ソ四十年ヲ經女帝カザリシ二世ニ至リ土留其人ヲ全ク境外ニ追ヒ普埃兩國ト共ニ波蘭ヲ

分割シ此時ヨリ魯國ハ歐洲中原ノコトニ直接ノ關係ヲ有スルニ至レ

チャールス十二世ハ彼ノ北海ノ獅子ト異名サレタルガスタヴアスノ孫ニシテ千六百九十七年十有五ノ弱冠ヲ以テ瑞典ノ王位ヲ踐メリピーター帝ハ此機ニ乘シバルテイツク海ノ東岸ニアル瑞典ノ領地ヲ奪ハント欲シ噠馬克及ビ波蘭ト同盟シテ陰ニ瑞典ノ分割ヲ圖レリ然レモ此企タル容易ニ成就サルベキニアラズ何トナレバ瑞典王ハ實ニ暫時ノ間北海ノ天ヲ一掃スベキ一大損石ナリケレバナリチャールス早クモ此陰謀ヲ探知シ我ヨリ先ンシテ彼ヲ制セントテ孤軍ヲ提グ噠馬克ニ入り一戰之ヲ破リ進ンデ波蘭ヲ襲フ波蘭亦支エズ此ニ於テ轉シテ魯境ニ入り連戰敵ヲ敗ルピーター和ヲ結バント請ヘモ聽カレザリシカバ笑ツテ曰ク我が友チャールスハ自ラア

レキサンダー・タラント欲スト雖^レ余豈ニダライアスナラソヤト千七百九年瑞典人トブルトワノ近旁ニ戦ヒ之ヲ破リチャールス逃レテ土留其ニ入ル之レヨリ盛又衰種々ノ運命ヲ重キ千七百十八年諾威ニ死ス

第四節 佛蘭西大革命

朕ガ後ニハ夫レ洪水アラントハルイ十五世ガ死ニ臨ミテ發シタル語ナリ當時佛國ノ状態ヲ察スルニリセリユ一以來人民ヲ壓制シ無益ノ奢侈ニ耽リ無用ノ戦争ヲ事トシ國用爲ニ乏シク租稅爲ニ重ク(當時租稅ヲ出スモノハ平民ノミナリシ)人民ノ不平ハ層一層積ンテ山ヲナセリ此際ルーソー、ヴォルテール等ノ過激說ヲ唱ヘテ世ヲ罵ルアリ米人ガ英國ノ羈絆ヲ脱シテ共和ノ政ヲ布クアリ殊ニ佛人ハ米國ニ與ミシテ其獨立ヲ助ケタルヲ以テ自國ニ於テモ一大改革ヲナサント欲シ内亂

ノ發生到底避クベカラズ千七百七十四年ルイ十六世位ヲ繼ギシモ優柔不斷ニシテ經國ノ才ナク況ンヤ社會ノ大勢一人ノ能ク制止シ得ベキニアラズ此ヲ以テ即位後幾クモナクシテ遂ニ堤防潰決洪水氾濫ノ憂ヲ見ルニ至レリ

佛國ニテハ千六百十四年以來國會ヲ開クコナク專制ノ政ヲ施セシガ千七百八十九年ニ至リ財政愈困難ナルヲ以テ已ムヲ得ズ之ヲ召集セリ尋テ國民會ナル者起リ國王貴族及ビ僧侶ノ特權ヲ全廢シ政治上及ビ宗教上ノ自由ヲ許ス等盡ク舊制度ヲ破壊セリ此際王ノ處置宜シキヲ得ズ巴理ノ賤民等亦狂セル如クバステイルノ牢獄ヲ毀チベルサイユノ王宮ヲ襲フ等亂暴至ラザル處ナキヲ以テルイハ逃レテ巴理ヲ出タレ^レ途ニシテ捕ヘラル千七百九十一年國民會ハ自ラ解散ヲ告グ次テ立法議會ナル者ヲ組織シ九十三年一月王ヲ裁判シテ遂ニ死刑ニ

處セリ之ヨリダントンマラーロベスピエール等威權ヲ振ヒ斷頭機ヲ製シテ人ヲ殺スヲ毎日七八十人ノ多キニ及ベリ實ニ當時ノ有様ハ今日之ヲ筆ニスルモ尙腥風紙上ニ滿ツルヲ覺ユルナリ既ニシテマラーハ婦人ノ手ニ刺殺セラレダントンロベスピエール自身モ斷頭機下ノ鬼トナリ人民ノ狂夢モ漸ク覺ムルニ至レリ之レヨリ先キ千七百九十二年立法議會ノ期限盡キ更ニ國政議會ナルモノヲ起セマカ九十五年ニ至リ之ヲ廢シテ五百名議會及ビ元老議會ノ二局ヲ置キ統督五名ヲ立テ、行政ノ長ヲラシム佛蘭西革命此ニ至リテ一段落ヲ結ベリ以上述ブル處ハ佛蘭西國內否寧ロ巴理府内ノ出來事ニ過ギズト雖モ此際佛人ハ四境ヨリ侵入スル處ノ外敵ニモ當レリ蓋シ米國獨立ニ引續キ佛國大革命起リテ王ヲ刑スルニ至リシヲ以テ歐洲列國ノ帝王皆大ニ之ヲ恐レ兵ヲ出シテ共和政府ヲ倒サントス之レヨリ戰爭常ニ絶

エズ或ハ來因河畔ニ於テシ或ハ子一ザイランドニ於テシ或ハ以太利ニ於テシ佛人ハ驚クベキ勇氣ヲ以テ常ニ勝利ヲ得タリ殊ニ奈破翁出ヅルニ及ビ佛人ハ忽チ攻撃ノ位置ニ立チ歐洲全土ヲ震懼セシムルニ至レリ

第五節 十八世紀文明ノ有様

十八世紀ハ大革命ノ時代ニシテ思想制度文物共ニ皆一變セリ就中佛國ノ學者ハ力ヲ極メテ當時ノ政体及ビ宗教ヲ攻撃シ其説入ツテ米國ノ獨立ヲ勵マシ佛國ノ革命ヲ促シ自由權理ノ伸張ヲ來シタリ當時ノ著述家ハ皆滑稽諷刺ニ長シ巧ニ世ヲ笑ヘリアディソンカウパーシヨンソングールドスミスザルタールバーンスウヰフト皆然ラザルハナシ哲學ハ著シキ進歩ヲナサハリシモ尙カントベンザムノ如キ大家出デ日耳曼ハシルレルゲーテノ二人ヲ得テ文學大ニ起レリ

此時代ニハ音學圖畫等ノ美術モ亦非常ニ發達シ理化學モ驚クベヤ進歩ヲナシ植物學地質學等モ此時ヨリ起レリ又アダム・スミツスハ富國論ヲ著ハシ理財學ナルモノ始メテ世ニ現ハル然レモ最モ世ニ實益ヲ與ヘタルモノハ此等ノ理論ヲ實際ニ應用シタルモノニシテジェームスワットハ蒸氣力ヲ使用スルコトヲ發明シハーグレーヴス及ピアークライトハ紡績機械ヲ作り華氏攝氏列氏ハ寒暖計ヲ創造シ其他種々ノ大發明アリタリ此ヲ以テ工業盛ニ起リ人民生活ノ度大ニ進捗スルニ至レリ

第四章 十九世紀

第一節 佛國ノ政變

十九世紀ノ始メ佛國ハ奈破翁ノ才略ニ依リ威ヲ歐洲ニ振ヘリ奈破翁ハ千七百六十九年コルシカニ生ル十歳ニシテ佛國ノ兵學校ニ入り専ラ數學及ヒ地理ヲ研究シ名ヲ得タリ十七歳ニシテ砲兵小尉トナリ屢

大功ヲ奏シ其ノ名忽チ天下ニ轟ケリ千七百九十九年奈破翁埃及ノ遠征ヨリ歸ル此ノ時統督官ハ全ク民望ヲ失ヒ恰カモ無政府ノ有様ナリシカバ奈破翁遂ニ之ヲ廢シテコンシユレイトトナシ自ラコンサルノ位ニ登レリ次テ又千八百四年コンシユレイトヲ廢シ皇帝トナル歐洲列國大ニ之レヲ恐レ交々佛國ヲ撃ツ奈破翁皆之レヲ破リ千八百十一年ニハ奈破翁ノ威權其ノ極ニ達シ和蘭子イプルス西班牙瑞典等ニ君臨スルモノ其ノ親戚ニアラサレハ即チ將校ナリ且ツ自ラ來因同盟及ヒ瑞西同盟ノ長トナリ列國ノ帝王皆其下風ニ立テリ獨リ英國ハ海軍ノ力ヲ恃ミ敢テ佛國ニ下ラス佛西兩國ノ艦隊モトッラフルガルニ於テ英ノ水師提督子ルソノ爲メニ破ラル是ヲ以テ奈破翁亦如何トモスル能ハズ遂ニ大陸諸國ニ命シ英國ト一切貿易ヲナスコトヲ禁制セリ然ルニ翌年ニ至リ魯國命ニ背キ英國ト通商セシヲ以テ奈破翁其罪ヲ

責ノ兵ヲ率井テ魯境ニ入ル魯帝非常ノ英斷ヲ以テ蒙士科ノ都府ヲ燒
 キ北方ニ退ク時已ニ嚴冬六出霏々タルモ佛兵ハ宿ルヘキ所ナク又食
 物ヲ得ルニ道ナカリシカバ奈破翁已ムヲ得ズ兵ヲ退ク然ルニ積雪脛
 ヲ没シ且ツ魯兵ノ追躡急ニシテ佛軍ノ途ニ斃ル、モノ數ヲ知ラズ奈
 破翁僅ニ身ヲ以テ逃ル列國此機ニ乘シ兵ヲ合セテ巴理ニ入り奈破翁
 ヲエルバ島ニ流シルイ十六世ノ弟ルイ十八世ヲ立ツ奈破翁エルバ島
 ニアル十日ニシテ佛國ニ歸ル人民歡呼シテ之ヲ迎ヘルイ十八世再ヒ
 他邦ニ逃ル歐洲列國此報ヲ得テ大ニ驚キ急ニ兵ヲ佛國ニ進メウエルリ
 ントンブリュッセル英普ノ兵ヲ率井テ白耳義ニ在リ奈破翁之トウオー
 ーローニ戰ヒ大敗ス實ニ千八百十五年六月十八日ナリ奈破翁又如何
 能ハスル能ハス位ヲ辭シ英軍ニ投ズ列國再ヒルイヲ帝トシ奈破翁ヲセ
 ントヘレナ島ニ竄流ス六年ヲ經テ此前古未曾有ノ英雄モ空シク孤島

ノ露ト消エ失タリ

千八百二十四年ルイ死シ弟チャールス十世立ツ王暴虐ナリシヲ以テ
 人民之ヲ廢シ從弟ルイフィリップヲ立ツフィリップ亦人民ヲ壓制セシヲ以テ
 千八百四十八年二月巴理ノ府民蜂起シ王ニ抗ス王英國ニ奔ルコ、ニ
 於テ佛人ハ政体ヲ變シテ共和制トナシ奈破翁ノ甥ルイナポレオンヲ
 撰ンテ大統領トスルイ竊ニ其伯父ノ爲ニ倣ハント欲シ國會ヲ解散シ
 千八百五十二年帝位ニ即キ奈破翁三世ト稱ス明年英國ト共ニ土耳其
 ヲ援ケテ魯國ト戰ヒ千八百五十九年サルヂニア王ヲ扶ケ埃國ト戰ヒ
 幸ニシテ皆勝利ヲ得タリ此時普國ノ勢次第ニ強大ニ赴キタルヲ以テ
 ルイ之ヲ嫉ミ西班牙ノ王位相續ヲ名トシ千八百七十年普國ト戰端ヲ
 開キ一敗地ニ塗レ身擒トナル此ニ於テ佛國ハアルサス、ロルレーンニ
 州ヲ割キ五十億フランノ償金ヲ出シテ和ヲ講シ新ニ共和政府ヲ立ツ

然レモ佛人ノ性ル急躁浮薄ニシテ極端ヨリ極端ニ移リ政府ノ基礎常ニ鞏固ナラズ共和政府再興ヨリ今日ニ至ルマデ内閣更迭ヲ見ルコト已ニ十余回ノ多キニ及ベリ

第二節 英國ノ繁榮

佛國革命ノ際ヨリ引續キ奈破翁興亡ノ間英國ハ常ニ佛國ニ敵シ殆シク寧歲ナカリシ千八百二十年ジョージ三世死シジョージ四世位ヲ繼グ此時マデ舊教徒ハ國會議員或ハ高等官トナル能ハザリシノミナラズ其他種々ノ權利ヲ有セザリシガ此時ヨリ之ヲ改メ全ク新教徒ト同等ノ權ヲ與ヘタリウヰルリアム四世次テ位ニ上ル千八百三十二年議員撰舉法ヲ改正シ一層撰舉權ヲ弘メタリ翌年國會ニテ奴隸ヲ廢スルコトヲ議決シ八十余萬ノ奴隸ヲ解放セリ千八百三十七年ヴクトリア女皇位ニ即ク千八百四十六年ゴブデンブライイト二氏ノ盡力ニヨリテ穀物共

他家畜等ニ輸入税ヲ課スルコトヲ廢シ貧民大ニ便ヲ得タリ千八百五十余年クリミア戦争起ル此時魯帝ニコラス土耳其領モルタヴィヤ及ピウヰラシアヲ奪ヒシヲ以テ英佛トモニ土耳其ヲ援ケ魯國ト戦ヒサルヂニア王ヴクトルエマニエル又之ニ與ミス翌年セバストポールヲ陷レ和ヲ結ブ之レヨリヂスレリー(ピート)コンスフェイルド伯(グラット)ストン等ノ名士相繼テ内政ヲ改良シ人民ノ權利ト幸福トハ益増進セリ

第三節 以太利統一

以太利ハ久シク埃國ノ支配ヲ受ケ其壓制ノ下ニ困ミシガサルヂニア王ヴクトルエマニエル英明ノ君ニシテ竊カニ埃太利ノ羈絆ヲ脱シ以太利ヲ一統セント欲ス宰相カブール將軍ガリヴァルヂー共ニ一世ノ英雄ニシテ王ヲ輔ケ遂ニ其志ヲ成セリ千八百六十一年國會ハエマニエルヲ尊シテ以太利ノ王トス同ク七十年都ヲ羅馬ニ定メ一統ノ功全ク

終之レヨリ以太利ハ長足ノ進歩ヲナシ歐洲五大強國ニ一ヲ加ヘテ
六大強國ト稱セシムルニ至レリ

第四節 日耳曼帝國ノ再興

奈破翁一世ノ時マテ日耳曼ハ尙帝國ノ名ヲ存シ埃太利王ハ日耳曼帝
ト號シタルニ奈破翁ノ政略ニ由テ帝國分裂シ埃太利王ハ遂ニ日耳曼
ノ帝位ヲ退キ埃太利帝ト稱セリ奈破翁失敗ノ後日耳曼ノ諸邦ハ同盟
ヲ形作り普埃兩國共ニ其長トナリ日耳曼帝位ヲ再興セント欲ス千八
百六十一年普王フレデリック、ウヰルリアム四世死シ弟ウヰルリアム一世位
ヲ繼ギビスマーグヲ舉ゲテ宰相トス此時ニ當リ普埃兩國ノ歎意ハ次
第ニ增長シ千八百六十六年遂ニ干戈ヲ動スニ至レリ以太利ハ此機ニ
乘ジ普ニ與ミシテ埃太利ヲ攻ム埃太利遂ニ歎スル能ハズ和ヲ乞フ爰
ニ於テ埃太利ハ日耳曼聯邦ノ中ヲ除カレノールン河以北ノ諸國同盟シ

普魯西ヲ推シテ盟主トス南獨逸ノ諸邦ハ尙獨立セシガ千八百七十年
普佛戰爭起リ普軍大捷ヲ得ルニ及ビ南北相合シウヰルリアム一世ヲ尊
シテ日耳曼帝トス實ニ千八百七十一年一月ナリ此ノ如クシテ普埃戰
争ハ普國ヲシテ日耳曼ニ覇タラシメ普佛戰爭ハ普國ヲシテ歐洲ニ覇
タラシメタリ而シテ此大事業ヲ成シタルハ重ニビスマーグ、モルトケ
二人ノ力ニ依ル埃太利ハ匈加利其他二三州ヲ合セ埃太利匈加利帝國
ヲ形作レリ

附錄

米國史

千四百九十二年コロムバスガ亞米利加ヲ發見セシ以來歐洲諸國爭フテ土地ヲ略シ殖民ヲナシ西班牙ハ墨西哥智利伯露其他南亞米利加ノ諸州ヲ從ヘ葡萄牙ハブラジルヲ取り佛蘭西ハ加奈太地方ヲ略セリ此際又英人ハバージニアヲ始メトシテ今日合衆國ノ東部太西洋ニ濱スル地方ニ殖民シ西班牙人ノ如ク徒ニ土人ヲ虐グ金銀ヲ奪フコトヲナサズ專ラ開墾ニ從事セシカバ日ヲ追フテ増繁榮ニ赴ケリ然レモ佛國殖民地ト戰爭常ニ絶エズ千七百五十八年英將ウルフクエベックヲ陷レテヨリ加奈太地方ハ全ク英人ノ手ニ歸シ今日迄尙其領スル所ナリ此時英國殖民地ハ十三州ヨリ成リ人口増加シ彌繁盛ニ趣ケリ本國政府ハ多年佛國トノ戰爭等ニテ國用欠乏ヲ告ゲシカバ殖民人ヲシテ軍

1499

1781

費ノ幾分ヲ償ハシメント欲シ千七百六十五年印紙條令ヲ發布セリ然レドモ殖民人ハ自ラ代議士ヲ出ササル國會ノ議決ニ服従スベキ道理ナシト主張シカヲ極メテ之ニ反對セシヲ以テ國會モ已ムヲ得ズ之ヲ廢セシト雖モ更ニ茶及ヒ其他ノ物品ニ課稅シ武力ヲ以テ之ヲ實施セシトス此ニ於テ米人大ニ怒リ兵ヲ舉ゲテ英國ニ反ス時ニ千七百七十五年ナリ翌年各州ノ代議士フイラデルフアニ會シテ獨立ノ布告ヲナス之レヨリ戰爭絶エス和盛頓能ク非常ノ勇氣ト熟練トヲ以テ英軍ニ當リ屢之ヲ破ル佛人ヲフアイエットモ亦來リテ米人ヲ助ク尋テフランクリンバ理ニ赴キテ佛王ニ説キ英國ト戰端ヲ開キ且ツ援兵ヲ送ラシム千七百八十一年英將コロンウリス降ヲ請ヒ踰エテ二年終ニ和議ヲ結ビ英國ハ殖民地ノ獨立ヲ承認セリ此ニ於テ十三州ノ代議士集マリテ憲法ヲ議定シ合衆共和ノ制ヲ立テ和盛頓ヲ撰ビテ大頭領トス時ニ千

A

七百八十九年即チ佛國革命ノ初年ナリ其後墨西哥、伯露、智利、ブラジル等モ各兵ヲ舉ゲテ獨立セリ
 和盛頓既ニ大頭領トナリ多年戰亂ノ餘民力凋弊シ負債山ノ如クナリ
 シカバ議院ニ謀リテ外國輸入品ニ重稅ヲ課シ以テ國債ヲ償却シ銳意
 休養ノ策ヲ講ゼリジヨン、アダムス、タマス、セツフェルソン等モ相尋テ大頭
 領トナリカヲ民治ニ盡セシカバ幾モナクシテ繁榮舊ニ倍シ又次第ニ
 土地ヲ拓キ州ヲ并セ今ハ三十七州ノ多キニ至レリ千八百五十三年大
 頭領ヒールアスノ時水師提督ペルリ我國ニ來リ通商ノ約ヲ結ベリ
 之ヨリ先キ南部ノ諸州ハ氣候温暖土地豐饒ナルヲ以テ人民皆農業ニ
 従事シ多ク奴隸ヲ使用セリ北部諸州ハ之ニ反シ氣候寒冷土地豐カナ
 ラザルヲ以テ人民多クハ製造貿易ニ従事シ奴隸ヲ使用スルコトナカリ
 シ且ツ又南部ノ人民ハ自由貿易策ヲ贊成スルモ北部ノ人民ハ常ニ保

護貿易ヲ主張シ奴隸ヲ使役スルコトヲ烈シク攻撃セリ南部ノ州民ハ不
 平ニ堪エズ竊ニ分立ヲ圖リシガ千八百六十年ノ大頭領撰舉ニ北部諸
 州勝利ヲ得平素熱心ナル奴隸排斥論者トシテ知ラレタルリンドン
 撰ハレテ大頭領トナリシカバ南部十一州ハ遂ニ分立シダヴィスヲ
 舉ゲテ大頭領トス之レヨリ内亂起リ米人ノ之ニ死スルモノ百萬ニ下
 ラス千八百六十五年北部ノ大將グモン南部ノ大將リーヲ降シテ漸
 ク其局ヲ結ヒ奴隸ヲ使役スルコトヲ全廢セリ此戰亂ニヨリテ合衆國ハ
 再ビ國債ヲ増シ人民一時ハ困窮ニ陥リタレモ漸次ニ繁榮ヲ恢復シ今
 日ニ至リテハ殷富天下ニ比ナキニ至レリ
 合衆國ハ一般ニ土地肥沃ニシテ五穀豐熟シ且ツ金銀鐵石炭等諸種ノ
 礦山ニ富メリ此ヲ以テ歐亞諸州ヨリ來住スルモノ續々絶エズ千八百
 二十一年ヨリ同シク八十七年ニ至ルマテ六十六年間ニ來住シタルモ

ノ千四百二十萬七千八百二十六人ノ多キニ達セリト云フ猶其盛況ヲ示サノ爲メ左ニ一二ノ表ヲ掲グベシ

千八百八十六年中ニ歐洲諸國ヨリ合衆國ニ來住シタル人員

英吉利 一二六、六〇一人

獨逸 八四、三〇一人

瑞典及ヒ諾威 四六、〇八一

埃太利匈加利 四〇、一一六

魯西亞 三三、二一六

以太利 三〇、四七二

噠馬 六六、三四

瑞西 四五、一八

佛蘭西 四〇、八五

和蘭 二六、六七

白耳義 一六、四一

西班牙及ヒ葡萄牙 五、二三

其他ノ歐洲諸國 二五、九三

合計 三八五、四四八

昨年末ノ調査ニヨルニ各國鐵道線路ノ長サハ實ニ左ノ如シ

合衆國 二四二、四九二、キロメートル

獨逸 三八、二六一

佛蘭西 三三、三一九

英吉利 三一、一一一

魯西亞 二六、二五五

埃太利匈加利 二五、五七六

以太利

一一六二五

日本

九三五

又千八百七十四五年ノ調査ニヨルニ各地人員一人ニツキ貯金額
ハ平均左ノ如シ

マツサチユーセツ州

七九二〇フラン

カリフォルニア州

三九九〇

ニユーヨルク州

三九七〇

暹馬

一一三八〇

獨逸

四九二〇

白耳義

一一二二

魯西亞

一〇三二

日本ハ千八百八十五年ノ調ニヨルニ人員一人ニツキ貯金額二十三

錢ニシテ凡ソ一フランニ當レリ

以上一二ノ表ヲ以テ合衆國富榮ノ一斑ヲ窺ヒ得ベレ

米人ハ世人ノ知ル如ク實際家ナリ拜金宗徒ナリ故ニ詩人ロングフエ
ロー、哲學者エマートン、文章家アービングノ如キハ稍ヤ有名ナレモ深
遠ナル學識ヲ有スル人ハ實ニ稀レナリトス唯器械ヲ發明シ世界ニ實
益ヲ與ヘタル人ハ少ナカラズ今之ヲ表ニテ示ス可シ

電氣

千七百五十三年

綿斷機

千七百九十三年

蒸氣船

千八百〇七年

電信機

千八百三十七年

海底電線

千八百六十六年

電話機

千八百七十七年

貯音器

萬國小歷史終

明治二十二年七月三日印刷
明治二十二年七月四日出版

定價金三十三錢

福井縣平民

發行者

柳原新一郎

東京神田區裏神保町
壹番地

滋賀縣士族

印刷者

熊田宜遜

東京神田區松下町
十三番地

印刷所

熊田活版所

松下町十三番地

東京神田區裏神保町壹番地

版權登錄



發兌書肆

敬業社

I have read
19

新編

新業

東京府目黒区新業町

社団法人新業

甲種

新業

甲種

新業

新業

東京府目黒区新業町



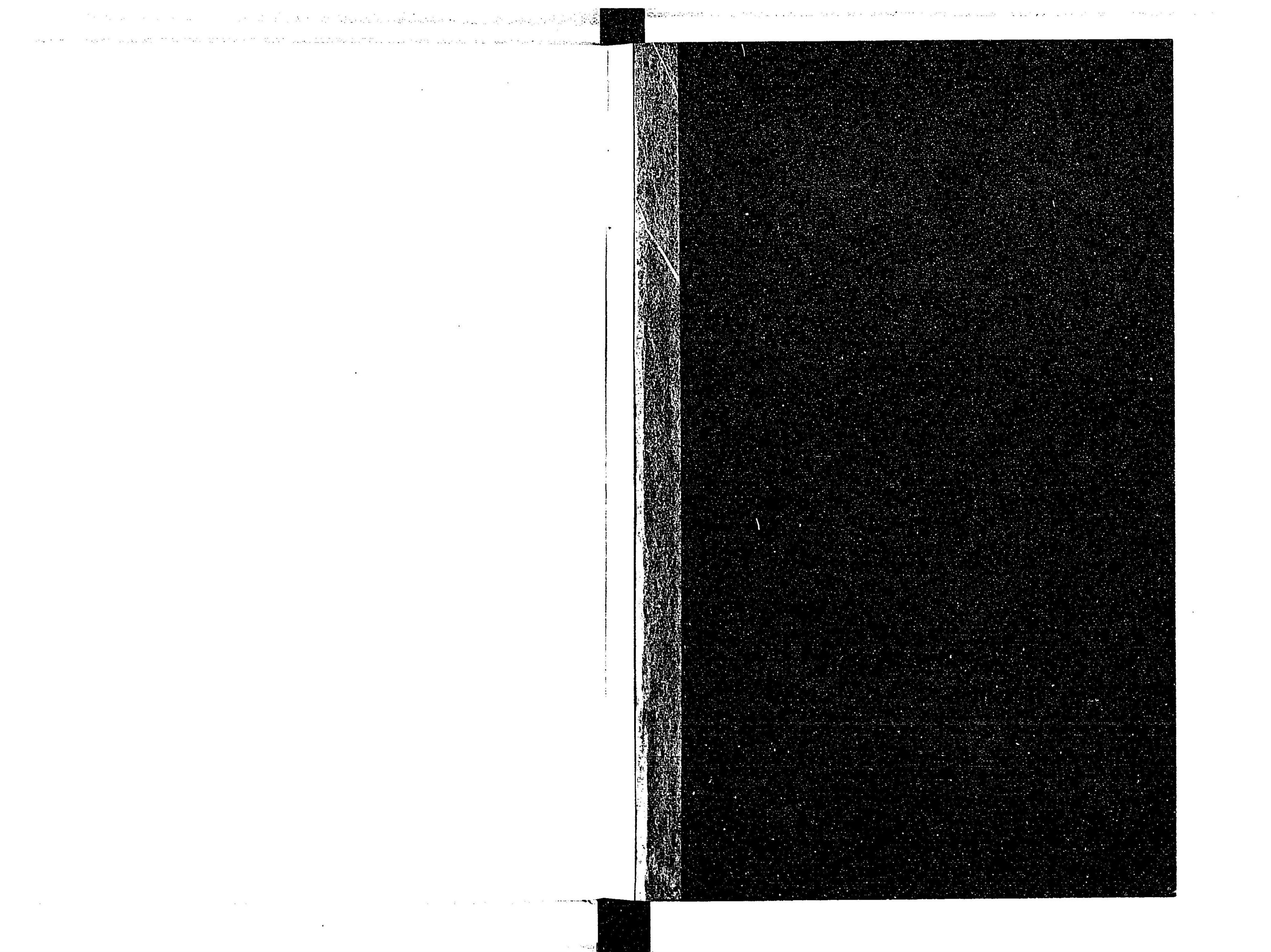
新業

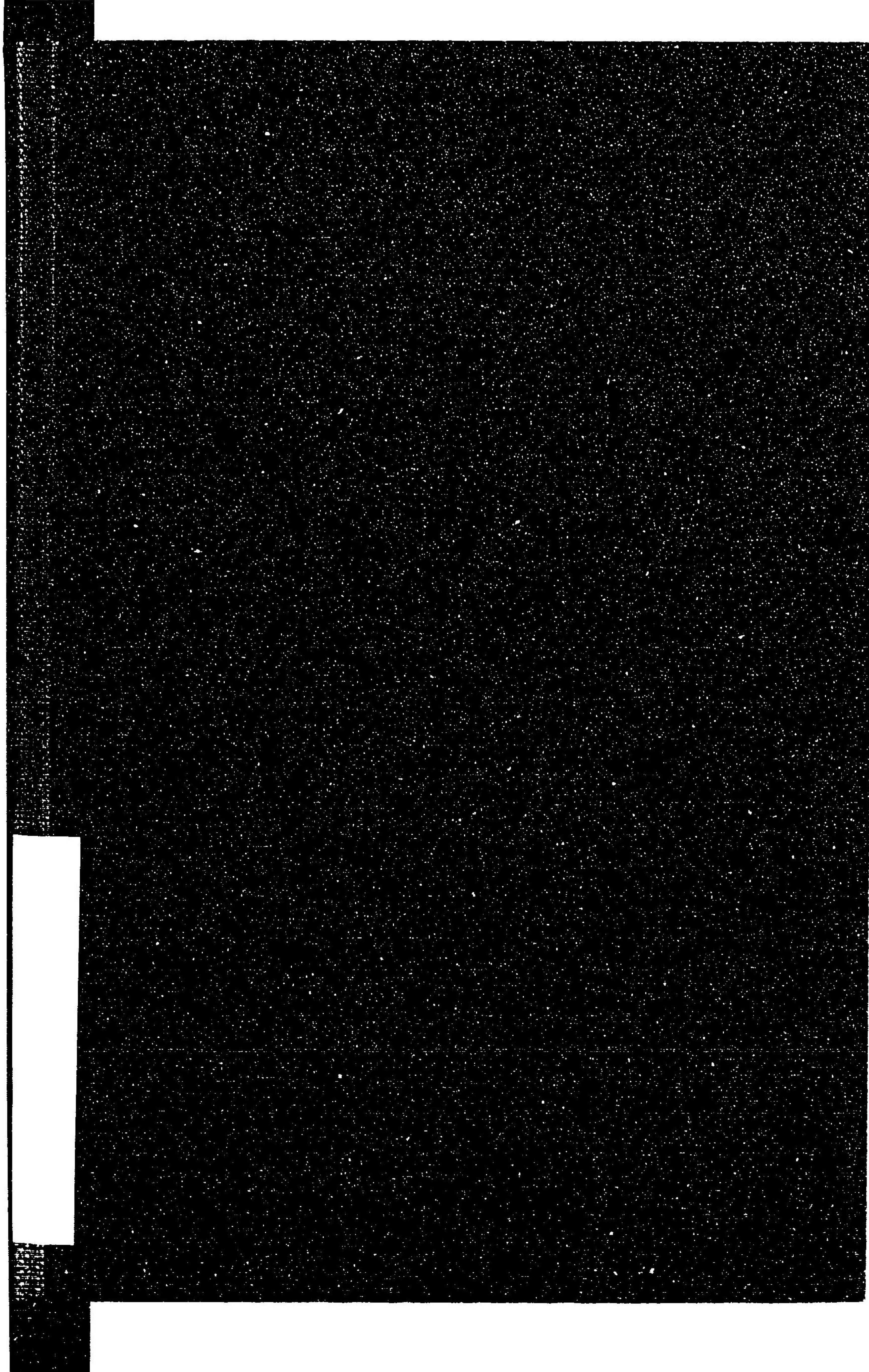
新業

新業

昭和二十二年八月四日出刊
昭和二十二年八月三日印刷







特20

83

万国小歴史

国立国会図書館

000191-000-9

特20-83

万国小歴史

M22

ACA-0305

